

第二十六條 第二十四條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ニリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ
損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ查定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十八條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 特許辨理士ニ非スシテ意匠ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル意匠ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス

特許法第九十九條、第一百二條第二項、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ準

用ス

◎意匠法施行細則

明治四十二年十月
農商務省令第四十三號

意匠法施行細則左ノ通改正ス

意匠法施行細則

第一條 意匠ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一意匠ニ付第十三條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ

願書ニハ圖面三通ヲ添附スヘシ

第二條 雜形又ハ見本カ貼附シ得ヘキモノナルトキハ之ヲ紙面ニ貼附シタルモノ三箇ヲ差出シ圖面ノ差出ニ代ユルコトヲ得寫眞ヲ紙面ニ貼附シタルモノ三箇ヲ差出ストキ亦同シ

前項ニ依リ差出ス寫眞ニハ臺紙ヲ附スヘカラス

第三條 同一物品ニ應用スヘキ自己ノ登録意匠又ハ出願中ノ意匠ニ類似スル意匠ニ付登録ヲ受ケムトスル者ハ類似意匠トシテ登録ヲ出願スヘシ

同一物品ニ應用スヘキ登録意匠ニ類似スル類似意匠ノ登録ヲ出願スル者ハ願書ニ其ノ登録意匠ノ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル意匠ヲ登録シタルトキハ願書ニ添附シタル登録證ニ其ノ

登録番號ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ還付スヘシ

第四條 意匠法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ意匠ヲ秘密ニセムコトヲ請求スル者ハ圖面其ノ他其ノ意匠ヲ表示スル物件ヲ密封シ「秘密意匠」ト朱書シ之ヲ願書ニ添附スヘシ

第五條 秘密ニスヘキ意匠ハ意匠權者ノ承諾ヲ得タル者若ハ裁判所ノ請求アリタル場合又ハ其ノ意匠ニ關スル密査、再密査、審判若ハ抗告審判ニ付利害關係ヲ有スル者ヨリ請求アリタル場合ノ外之ヲ意匠權者以外ノ者ニ示スコトヲ得ス

第六條 秘密ニスヘキ登録意匠ニ付利害關係人カ登録標記ヲ附シタル意匠又ハ之ヲ認識スルニ足ルモノヲ差出シ其ノ登録ノ存否、登録番號、登録ノ年月日、意匠ヲ應用スヘキ物品又ハ意匠權者ノ氏名住所、居所、若ハ營業所ノ通知ヲ受ケムコトヲ請求スルトキハ特許局長ハ之ヲ許可スルコトヲ得

第七條 意匠法第七條ノ規定ニ依ル登録願書ニハ實用新案ノ登録ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ謄本ヲ添附スヘシ

第八條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ意匠法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第九條 登録出願ニ依ル意匠ヲ應用スヘキ物品カ第十三條ニ定メタルニ以上ノ類別ニ且ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキ又他類ニ屬スル物品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第十條 第三條ノ規定ニ依リテ出願シタル意匠ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ類似意匠ノ登録番號、願書番號又ハ符號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ

第十一條 登録證ハ第四號乃至第七號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

第十二條 意匠登録ノ標記ハ「登録意匠」ノ文字及其ノ登録番號ヲ表示スヘシ

意匠法第二十二條ニ基ク特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル意匠登録ノ標記ハ前項ニ依ル記載ニ一部ノ文字ヲ附加スヘシ

第十三條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セムトスル物品ヲ指定スヘシ

第一類 被服、被服地
衣服、袴、帶、襪、肩掛、頸卷等

第二類 頭飾、服飾、裝身具
櫛、簪、根掛、胸飾、頸飾、腕環、指環、釦鈕、襟針、徽章等

第三類 時計及其ノ附屬品
袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、仗、鞭

第五類 携帶品

紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提靴等

第六類 家具、飲食品、室內裝飾品、商品ノ容器包裝類

柵、箆筒、机、椅子、桌子、寢臺、額、屏風、衝立、暖爐、火鉢、花瓶、膳、碗、皿、鉢、杯、菓子器、茶器、珈琲具、壺、罐等

第七類 數物

緞道、油圓、花莖等

第八類 文房具

硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨筭、水滴、印材、肉池、文臺、硯箱、筆、墨、
「インキ壺、ハシ」軸等

第九類 燈器

燭臺、手燭、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈、提燈、燈蓋、火屋等

第十類 建築物ノ附屬品

障子、襖、屏、欄間、欄干、引手、釘隠、柵等

第十一類 他類ニ屬セサル織物、編物、組物及其ノ製品

襪紗、手巾、卓破、「レース」、羽織紐、帶締紐、時計紐、飾紐等

第十二類 冠物

帽子、頭巾、笠等

第十三類 履物及其ノ附屬品

下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等

第十四類 扇、團扇

第十五類 樂器、玩具、遊戲具

第十六類 菓子及其ノ他ノ食用品

第十七類 紙、皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品

紋紙、紋革、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、包紙、短冊、書簡箋、書簡筒等

第十八類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、土器、玻璃器、七寶製品、煉瓦、瓦

第十九類 他類ニ屬セサル漆器、假漆器、油漆塗器ノ類

第二十類 他類ニ屬セサル金屬又ハ石材ノ製品

第二十一類 他類ニ屬セサル木、竹、甲、角、牙、介類ノ製品

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十四條 第一年乃至第三年分ノ意匠料又ハ類似意匠ノ意匠料ハ登録スヘシトノ査定ノ
送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

(357)
第十五條 特許法施行細則第一條乃至第三十九條、第四十四條、第四十五條、第四十八
條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至
第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附則

- 第十六條 本則ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十七條 第十二條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル意匠登録ノ標記ニ之ヲ適用セス
- 第十八條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十九條 本則施行前登録シタル意匠又ハ登録スヘシトノ査定アリタル意匠ヲ應用スヘキ物品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

(書式)

第一號書式

收入
印紙

意匠登録願

- 一意匠ノ名稱
- 一意匠請求ノ範圍
- 一意匠ヲ應用スヘキ物品
- 一案出者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業
(本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀前記意匠ニ付登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

出願人(案出者) 氏

名印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名殿

添附書類目錄

一何々

何通

一何々

何通

第二號書式

收入
印紙

類似意匠登録願

- 一意匠ノ名稱
- 一意匠請求ノ範圍
- 一意匠ヲ應用スヘキ物品

一案出者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

一同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ登録番號

(願書番號又ハ符號)

私(私共)儀前記意匠ニ付登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

出願人(案出者)

氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長

氏

名 殿

添附書類目錄

一何々

何通

一何々

何通

第三號書式

收入
印紙

意匠品(意匠圖案)出品届

一意匠ノ名稱

一案出者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)

(本項ハ届出人カ案出者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙説明書及圖面ニ記載スル意匠品(意匠圖案)ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ
於テ政府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ
付此段及御届候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長

氏 名 殿

添附書類目錄

一何々

何通

一何々

何通

第四號書式

第何號

意匠登録證

案出者 何縣何誰

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

(二同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登録第何號)
前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登録シ
ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

第五號書式

類似意匠第何號

類似意匠登録證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

特許局長 氏

名 印

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

案出者 何縣何誰

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一合體スヘキ意匠權登録第何號

前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登録スヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登録シ茲
ニ本證ヲ下付スルモノ也

年 月 日

第六號書式

複第何號

意匠登録證複本(類似意匠登録證複本)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

特許局長 氏

名 印

案出者 何縣何誰

一登録番號(類似意匠第何號)

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

(364)

一意匠權存續期間 自明治何年何月何日(合體スヘキ意匠)
至明治何年何月何日(權登錄第何號)
(二同一ノ物品ニ應川スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)
前記意匠ノ意匠權ニ付意匠登錄證(類似意匠登錄證)複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證
ヲ下付スルモ也

年月日

特許局長 氏

名 印

第七號書式

第何號

意匠登錄證(類似意匠登錄證)

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

案出者 何縣何誰

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

一意匠權存續期間 自明治何年何月何日(合體スヘキ意匠)
至明治何年何月何日(權登錄第何號)

(二同一ノ物品ニ應用スヘキ互ニ相類似スル意匠ノ意匠權登錄第何號)

前記意匠ノ意匠登錄證(類似意匠登錄證)何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲

ニ本證ヲ下付スルモ也

年月日

特許局長 氏

名 印

第八號書式

收入
印紙

納付書

登錄番號又ハ願書番號

登錄ノ名稱

一金何圓也

第何年分意匠料

右納付候也

住所(居所又ハ營業所)

氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏

名 殿

年月日

◎意匠ノ登録ニ關スル件

(明治四十二年十月
勅令第二百九十五號)

朕意匠ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠ノ登録ニ關シテハ特許登錄令ヲ準用ス

(365)

前項ノ規定ニ依リ許許登録令ヲ準用スル場合ニ於テ同令中ニ引用シタル特許法ノ條項ハ
意匠法第十條第二項及第二十二條ノ規定ニ依リ準用シタル特許法ノ條項ニ該當ス
意匠權ヲ分割シテ移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ移轉スル意匠ヲ應用スル物品
ヲ申請書ニ記載スヘシ

附則

本令ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ意匠權ノ設定ニ係ル願書中請求範圍及案出者ニ關スル部分、圖面及圖面ニ
代ルモノハ之ヲ舊意匠原簿ノ一部ト看做ス

◎意匠ノ登録ニ關スル件施行規則

(明治四十二年十月
農商務省令第四十七號)

明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行規則

第一條 意匠ノ登録ニ關シテハ本則ニ定アルモノヲ除クノ外特許登録令施行規則ノ規定
ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シ
タル特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ意匠法又ハ意匠ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタ

ル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

第三條 意匠原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 意匠原簿ノ表題部ハ之ヲ分チテ第一區及第二區トシ第一區ニハ意匠權、第二區
ニハ類似意匠ノ意匠權ニ關シ表示欄ニ記載スヘキ事項ヲ記載スヘシ

第五條 意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ
意匠ヲ應用スル物品ノ類別及物品ヲ記載スヘシ

第六條 類似意匠ノ意匠權設定ノ登録ヲ爲スニハ最先ニ發生シタル意匠權ノ登録用紙中
表示欄ニ類似意匠ナル旨及其ノ番號ヲ記載シ前條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲スヘシ

第七條 類似意匠ノ意匠權力消滅シ又ハ無効トナリタルトキハ最先ニ發生シタル意匠權
ノ登録用紙中表示欄ニ其ノ原因ヲ記載シ消滅又ハ無効トナリタル意匠權ノ表示及表示
番號ヲ朱抹スヘシ但シ最先ニ發生シタル意匠權力消滅シ又ハ無効トナリタルトキハ特
許登録令施行規則第四十四條乃至第四十六條ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ

第八條 意匠ヲ應用スル物品ニ依ル意匠權分割移轉ノ登録ハ料金納付ノ順序ニ從ヒテ之
ヲ爲スヘシ

前項ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ特許權分割ノ許可ニ依ル登録ニ
準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ但シ各登録用紙中表示欄ニ意匠權ノ表示ヲ爲ス場合ニ於テハ
第五條ノ規定ニ準シ尙移轉シタル意匠權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ取得者ノ氏名又ハ

(368)

名稱及住所ヲ記載スヘシ

附則

第九條 本則ハ明治四十二年勅令第二百九十五號意匠ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス別記様式

登録 番號	表題部		甲區	乙區	丙區	丁區	代理 人欄
	第一區	第二區					
	表示 番號	表示 番號	順位 番號	事項 欄	順位 番號	事項 欄	順位 番號

商標法

(明治四十二年四月法律第二十五號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商標法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標法

第一條

自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣ノ營業ニ係ル商品ナルコトヲ表彰スル爲商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登録ヲ受ケルコトヲ得登録ヲ受ケルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形、記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケルコトヲ得

第二條

左ニ掲ケル商標ニ付テハ之ヲ登録セス

- 一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ
- 二 國旗、軍旗、勳章、褒章、記章若ハ外國ノ國旗ト同一又ハ類似ノモノ
- 三 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ
- 四 同一商品ニ慣用スル標章ト同一又ハ類似ノモノ
- 五 世人ノ周知スル他人ノ標章ト同一又ハ類似ニシテ同一商品ニ使用スルモノ
- 六 白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「シエ」字「十字」ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

(369)

七 政府、道、府縣若ハ政府ノ認可ヲ得タルモノノ開設スル博覽會、共進會又ハ外國ニ於ケル官設ノ博覽會若ハ官許ノ萬國博覽會ノ賞牌、賞狀若ハ褒狀ト同一又ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ但シ其ノ賞牌、賞狀又ハ褒狀ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部トシテ之ヲ使用セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八 他人ノ肖像、氏名、商號又ハ法人若ハ組合ノ名稱ヲ有スルモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

九 登録失効後一年ヲ經過セサル他人ノ商標ト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ登録失効前一年以上使用セサリシ商標ト同一又ハ類似ノモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條 同一商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付各別ニ登録ヲ受クルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

明治三十二年七月一日前ヨリ同一商品ニ付同一若ハ類似ノ商標ヲ善意ニ使用シタル者其ノ商標ニ付登録ヲ出願シタル場合ニ於テハ前條第五號及前項ノ規定ニ拘ラス其ノ商標ヲ登録スルコトヲ得

同一商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ互ニ相類似スルモノハ聯合商標トシテ出願シタル場合ニ限り之ヲ登録ス

第四條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得

前項ノ權利ノ承繼ハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條 商標權ハ登録ニ依リ發生ス
商標權者ハ登録出願ノ際指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ有ス

第六條 商標權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ表示シ又ハ其ノ商品ノ普通名稱、產地、品位、品質、效能、用途、製法、時期、數量、形狀若ハ價格ヲ表示スルモノニ及ハス但シ商標登録後惡意ヲ以テ同一ノ氏名、商號、法人若ハ組合ノ名稱ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 商標權ノ存續期間ハ二十年トス
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

外國、登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノハ其ノ本國ニ於ケル商標權ト共ニ消滅ス但シ其ノ存續期間ハ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

(371)
第八條 商標權ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限り之ヲ移轉スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ商標權ハ其ノ商標ヲ使用スル商品ニ依リ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得

聯合商標ノ商標權ハ分離シテ移轉スルコトヲ得ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ職權ヲ以テ又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ商標ノ登録ヲ取消スルコトヲ得

一 商標權者其ノ登録商標ニ世人ヲ欺瞞スヘキ附記又ハ變更ヲ爲シテ之ヲ使用シタルトキ

二 商標權者正當ノ事故ナクシテ帝國內ニ於テ登録後其ノ商標ヲ使用セスシテ一年ヲ經過シ又ハ其ノ使用ヲ中止シテ三年ヲ經過シタルトキ但シ聯合商標ニ付テハ其ノ一ヲ使用シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三 商標權ノ移轉アリタル場合ニ於テ其ノ相續ニ依ルモノヲ除クノ外一年以内ニ商標權移轉ノ登録ヲ請求セサルトキ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタルモノニ付テハ前項第二號ノ規定ヲ適用セス

第一項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第十條 商標權者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ商標權ハ消滅スルモノトス

第十一條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録力第一條乃至第三條、第四條第二項又ハ

第二十二條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ

第十二條 登録スヘシトシテ査定又ハ審決アリタルトキハ之ヲ商標原簿ニ登録シ商標登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ商標公報ヲ發行シ登録商標及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第十四條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケル者ハ其ノ登録ヲ受ケル際每件商標料金二十圓ヲ、聯合商標ニ在リテハ每件金十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 商標ノ登録ヲ出願スル者ハ各商標ニ付命令ノ定ムル類別内ニ於テ其ノ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第十六條 商標又ハ商標權存續期間更新ノ登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十七條 登録スヘカラストノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ更ニ審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム

第十八條 審判ハ左ニ掲ケル事項ニ付テハ請求スルコトヲ得

一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無効

二 商標權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二號第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條條二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

登録商標カ第二條第八號若ハ第九號、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ反シタル場合

ニ於テ商標公報ニ掲載シタル日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ審判ヲ請求スルコトヲ得
ス

第十九條 審判ノ審決又ハ再審査ノ査定ニ不服アル者ハ審決又ハ査定ノ送達ヲ受ケタル
日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 營利ヲ目的トセサル業務ニ係ル商品ニ使用スル標章ヲ専用セムトスルトキハ
本法ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ得

前項ノ標章ニ付テハ商標ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十一條 特許法第八條、第十二條乃至第十五條、第十六條第一項、第十七條乃至第
二十五條、第三十三條、第四十九條第二項、第五十條、第五十三條、第六十條、第六
十六條乃至第六十八條、第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項第
二項、第八十四條、第八十五條及第八十七條乃至第九十一條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ
準用ス

第二十二條 外國人ニシテ帝國内ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘ
キモノニ規定アル場合ノ外商標權又ハ之ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

商標ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用シタル者又ハ其

ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

二 他人ノ登録商標若ハ之ヲ付シタル容器、包裝等ヲ同一商品ニ使用セシムルノ目的
ヲ以テ交付、販賣シ又ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 同一商品ニ使用シ又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ他人ノ登録商標ヲ偽造又ハ模造
シタル者

四 同一商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ偽造若ハ模造ノ商標ヲ交付、販賣シ又ハ之
ヲ同一商品ニ使用シタル者

五 偽造若ハ模造ノ商標ヲ使用シタル同一商品ヲ交付、販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目
的ヲ以テ之ヲ所持スル者

六 他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣ノ目的ヲ
以テ輸入シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付、販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ
所持スル者

七 他人ノ登録商標ヲ偽造又ハ模造スル爲其ノ用具ヲ製作、交付、販賣若ハ所持スル
者

八 同一商品ニ關シ他人ノ登録商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用井ル廣告、看板
、引札、物價表又ハ其ノ他ノ取引書類ニ使用シタル者

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル者

一 登録ヲ受ケタル商標ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シ之ヲ商品ニ使用シタル者又ハ其ノ商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

三 登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル商標ヲ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者

第二十五條 第二十三條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ヨリ請求アリタルトギハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲スヘシ
損害ノ額カ交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトギハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトギハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトギハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十七條 證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應

セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトギハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 特許辨理士ニ非スシテ商標ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

舊法ニ依リ登録ヲ受ケタル商標ニ付テハ其ノ存續期間内ハ本法第二條第六號乃至第八號ノ規定ヲ適用セス第九條ニ定ムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス
特許法第九十九條、第一百五條及第一百六條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

商標法施行細則

(明治四十二年十月 農商務省令第四十四號)

商標法施行細則左ノ通改正ス

商標法施行細則

第一條 商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一商標ニ付第二十條ニ定メタル類別毎ニ一通ノ願書ヲ作り之ヲ特許局ニ差出スヘシ

願書ニハ商標見本ヲ添付スヘシ

第二條 商標ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ著色シタル見本ヲ添付スヘシ

第三條 登録商標ト互ニ相類似スル商標ヲ聯合商標トシテ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ登録商標ノ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ出願ニ係ル商標ヲ登録シタルトキハ願書ニ添附シタル登録證ニ其ノ登録番號ヲ記載シ特許局長署名捺印シテ之ヲ還付スヘシ

第四條 商標法第三條第三項ノ規定ニ依リテ出願シタル聯合商標ニ付登録スヘシトノ査定ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ聯合商標ノ登録番號、願書番號又ハ符號ヲ査定ノ主文中ニ記載スヘシ

第五條 商標ノ見本ハ強靱ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ見本ハ五通之ヲ差出スヘシ但シ特許局長ニ於テ必要ト認ムルトキハ更ニ其ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第六條 商標ノ登録出願ヨリ生シタル權利ヲ承繼シタル者ノ差出ス出願人ノ名義變更ノ届書ニハ其ノ承繼人タルコト及營業ヲ讓受ケタルコトヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第七條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ商標法第四條第二項但書ノ規定ニ依リ關係者ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第八條 商標法第三條第二項ノ規定ニ依リ商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ善意ニ其ノ商標ヲ使用シタル事實ヲ證明スヘシ

第九條 共同シテ使用スル商標ノ登録ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第十條 商標法第二條第七號乃至第九號ニ該當スル商標ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ各號ノ但書ノ規定ニ依リ登録ヲ受クルコトヲ得ヘキ事實ヲ證明スヘシ

第十一條 外國ノ登録商標トシテ帝國ニ於テ其ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ノ登録證其ノ他本國ノ登録ニ係ル商標及其ノ登録ノ年月日ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ受ケタル商標ニ付其ノ本國ニ於テ商標權存續期間更新ノ登録出願カ許可セラレタル後帝國ニ於テ其ノ商標權存續期間更新ノ登録ヲ出願セムトスル者ハ願書ニ其ノ本國ニ於テ許可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第十二條 特許局長必要ト認ムルトキハ商標ノ登録出願人ニ對シ商標ニ關スル説明書ノ差出ヲ命スルコトヲ得

第十三條 登録出願ニ係ル商標ヲ使用スヘキ商品カ第二十條ニ定メタル二以上ノ類別ニ互ルニ依リ願書ヲ訂正セムトスルトキハ他類ニ屬スル商品ニ付前願書ト同一ノ願書ヲ差出シ同時ニ前出願ヲ訂正スヘシ

第十四條 商標權存續期間更新ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ願書ニ登録證ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ差出スヘシ

前項ノ期限後ト雖モ商標權存續期間滿了以前ニ在リテハ別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前

項ノ願書ヲ差出スコトヲ得

第十五條 登錄スヘシトノ査定又ハ審決アリタルトキハ出願人又ハ請求人ハ其ノ査定又ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ商標料ヲ納付シ且商標ノ印版一箇ヲ特許局ニ差出スヘシ

第十六條 商標ノ印版ハ木版、細網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノヲ用井長サ及幅各曲尺三寸三分(十)センチメートル以内、厚サ七分九厘二毛(二)センチメートル(四)以下文字ヨリ成ル商標ノ印版ノ長サ及幅ハ各二寸一分四厘五毛(六)センチメートル(五)以内トスヘシ

印版ハ一箇ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ

第十七條 特許法施行細則第二十條及第二十一條ノ規定ハ商標ノ印版ニ之ヲ準用ス

第十八條 登錄證ハ第四號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り特許局長之ニ署名捺印スヘシ

登錄證ニハ商標見本ヲ貼附スヘシ

第十九條 商標法第二十條ノ規定ニ依リ標章ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ主務官廳ノ認可ヲ得テ設立シタルモノナルトキハ願書ニ其ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第二十條 出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セムトスル商品ヲ指定スヘシ

第一類 化學品、藥劑及醫療補助品

酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、樹脂、膠、燐、酒精、偏里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、舍利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、香精、石灰、硫黃、鑛水、麝香、打粉、食鹽、艾、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、繻帶、綿紗、綿織絲、脫脂綿、海綿、「チプロライト」等

第二類 染料、顏料、媒染料及塗料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬、漆、假漆、油漆、造、靴墨、革油、防鏽料、防水料等

第三類 香料、燻料及他類ニ屬セサル化粧品

香水、香油、白粉、髮膏、香袋、線香、炷香、化粧下等

第四類 石鹼

第五類 他類ニ屬セサル洗料、磨料

洗粉、齒磨、洗液、磨液等

第六類 他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、軌條、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、「アルミニウム」、「ニツケル」、水銀、合金等

第七類 他類ニ屬セサル金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第八類 利器及尖刃器

鎌、鋸、鑿、錐、鑿、斧、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鉋、針、釘、燕嘴等

第九類 貴金屬、其ノ模造物、「アルミニウム」金、「ニッケル」銀、「ブリタニヤ、メ

タル」及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鏤品

金、銀、四分一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、鍍品、「モール」等

第十類 寶石類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品並彫鏤品

金剛石、珊瑚、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等

第十一類 鐵物類

第十二類 石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品

第十三類 漆喰及土砂類

漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂、火山灰等

第十四類 他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦、煉瓦類

第十五類 玻璃及他類ニ屬セサル其ノ製品並瑠璃質品

玻璃板、玻璃管、玻璃纜、玻璃球等

第十六類 護謨及他類ニ屬セサル其ノ製品

第十七類 他類ニ屬セサル機械、器具及其ノ各部

汽罐、汽機、發電機、電動機、變壓器、織機、紡績機、裁縫機、印刷機、揚水機

消火器、潛水器、調帶等

第十八類 理化學、醫術、測定、寫眞、教育用ノ器械器具、蓄音機、眼鏡、算數器類

及其ノ各部

電信機、電話機、電氣開閉器、電池、試驗管、外科用器械、度量衡器、感光膜、フィルム

製圖器、體操用器具、望遠鏡、顯微鏡、被覆電線、電氣絕緣用碍子、電氣器械器

具用炭素等

第十九類 農工器具

犁、鋤、鋏、稻拔、唐箕、耙、釘拔、鐵槌、銚廻シ、「スコップ」、「シヨール」

鶴嘴等

第二十類 運搬用機械、器具及其ノ各部

荷車、馬車、人力車、自動車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道用車輛、車輪、イマ

イヤミ」等

第二十一類 時計、其ノ附屬品及其ノ各部

第二十二類 樂器

第二十三類 銃砲、彈丸及爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火、水雷等

第二十四類 蠶種、野蠶種及繭

- 第二十五類 眞綿、木棉綿、麻、苧、羽毛ノ類及其ノ粗製品
- 第二十六類 生絲、絹絲、野蠶絲、天蠶絲、琴絲、金絲及銀絲
- 第二十七類 綿絲
- 第二十八類 毛絲
- 第二十九類 麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木棉織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織類
- 第三十四類 第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物
- 第三十五類 他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撚物、「レース」、「リボン」類、他類ニ屬セサル刺繡品及各種ノ紐類
- 第三十六類 被服、手巾、釦鈕及裝身用「ピン」類
衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、領飾、襟、襯衣、「ツボン」下、手袋、足袋
「ハンカチーフ」、手拭、「タオル」、袂紗、風呂敷等
- 第三十七類 寢具及他類ニ屬セサル室内裝置品
簾幕、蒲團、枕、蚊帳、座蒲團、屏風、額、卓被、窓掛、敷物等

- 第三十八類 清酒
- 第三十九類 他類ニ屬セサル各種ノ酒類
葡萄酒、麥酒、「ブランデー」、「ベルモット」、「ウヰスキー」、吟淋、白酒、燒酎、濁酒、龜ノ歳直シ等
- 第四十類 氷及清涼飲料
曹達水、蜜柑水、「ラムネ」、「サイダー」等
- 第四十一類 醬油、「ソース」及酢類
- 第四十二類 砂糖、蜜類
白砂糖、黑砂糖、「ザラメ」、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 第四十三類 菓子及麵麩類
干菓子、蒸菓子、掛ヶ物、飴、砂糖漬等
- 第四十四類 茶、珈琲、「チョコレート」、珈琲入角砂糖ノ類
- 第四十五類 他類ニ屬セサル食料品及加味品
肉類、越幾斯類、卵、鰹節、海苔、昆布、荒布、佃煮、罐詰、味噌、醬物、漬物、胡椒等
- 第四十六類 獸乳、其ノ製品及其ノ模造品
凝乳、乳油、乳餅、乳粉等

第四十七類 穀菜類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品

米、麥、粟、黍、稗、豆、蕈、乾瓢、球根、麴種、「モヤシ」、「ベーキング」、
「ウダー」、「イースト」、「パウダー」、麥粉、葛粉、麩類、湯葉、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟
蒻等

第四十八類 煙草類

第四十九類 煙具及袋物

煙管、煙袋、煙管筒、薄荷「パイプ」、懷中物等

第五十類 紙、他類ニ屬セサル其ノ製品、各種ノ元結及水引

日本紙、西洋紙、板紙、擬革紙、壁紙、油紙、濾紙、書筒筒、張文匣、「一閑張」、「
帳簿等

第五十一類 文房具

筆、墨、印肉、印材、「インキ」、印刷用「インキ」、石筆、鉛筆、「ペン」、「ペン」軸
硯、「インキ」壺、文鎮、筆筒、筆架、石盤、紙綴具、鉛筆削等

第五十二類 皮革及他類ニ屬セサル其ノ製品並各種ノ鞣類

毛皮、柔革、馬具、文匣、革帶、唐弓絃等

第五十三類 燃料類

石炭、「コークス」、薪、炭、附木、懷爐灰等

第五十四類 摺附木

第五十五類 油、蠟類

石油、種油、魚油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十六條 肥料

干鰯、鱈粕、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糠、磷酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞
等

第五十七類 木竹材、木皮、竹皮及經木類

第五十八類 他類ニ屬セサル木、竹、籐、木皮、竹皮ノ類ノ製品及其ノ漆塗品、蒔繪
品ノ類

指物、挽物、曲物、編物、組物、桶、經木真田等

第五十九類 甲、角、牙、介類、他類ニ屬セサル其ノ製品及其ノ模造品並「セルロイ
ド」及他類ニ屬セサル其ノ製品

第六十類 藁、草及他類ニ屬セサル其ノ製品

麥稈、疊表、蓆、蓆、笠、繩、麥稈真田等

第六十一類 傘、杖、履物及其ノ附屬品

傘、蝙蝠傘、杖、靴、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第六十二類 扇子及團扇類

第六十三類 燈器及其ノ各部

洋燈、燭臺、提燈、電燈球、燈蓋、電燈承口、電燈織條、瓦斯「バーナー」、瓦斯「マントル」、弧光燈川炭棒、懷中電燈、燭心等

第六十四類 刷子及鬚類

第六十五類 玩具、遊戲具、造花及花簪ノ類

鞠、碁、將碁、人形、獨樂、弓、球突具、押繪、骨牌等

第六十六類 圖畫、寫真、ブック、書籍、新聞紙、雜誌類

第六十七類 他類ニ屬セサル商品

第二十一條 特許法施行細則第一條乃至第三條、第五條乃至第三十九條、第四十八條乃至第五十二條、第五十七條、第六十條、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス
第二十二條 本則ノ規定ハ標章ニ關シ之ヲ準用ス

附則

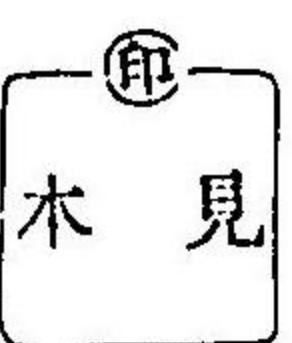
第二十三條 本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス
第二十五條 本則施行前登録シタル商標又ハ登録スヘシトノ査定アリタル商標ヲ使用スヘキ商品ノ類別ハ本則施行後仍從前ノ例ニ依ル

(書式)

第一號書式

收入
印紙

商標(標章)登録願(外國登録商標登録願)



商標(標章)ヲ附スヘキ商品

私(私共)儀前掲商標(標章)ニ付登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

出願人 氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

年 月 日

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第二號書式

(390)

收入
印紙

聯合商標(聯合標章)登録願

見
本

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

一聯合商標(聯合標章)登録番號(願書番號又ハ符號)

私(私共)儀前掲商標(標章)ヲ聯合商標(聯合標章)トシテ登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

出願人氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

一何々

何通

一何々

何通

第三號書式

(391)

收入
印紙

商標權(標章權)存續期間更新登録願

見
本

一登録番號

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

(一聯合商標(聯合標章)登録第何號)

私(私共)儀前記商標權(標章權)ニ付存續期間更新ノ登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

出願人氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

年月日

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

一何々

何通

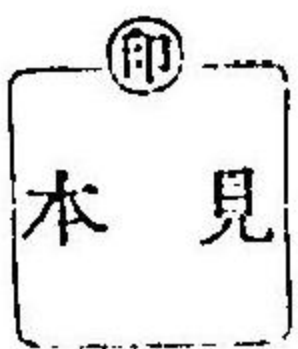
一何々

何通

第四號書式

第何號

商標登錄證(標章登錄證)



本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

(一聯合商標(聯合標章)登錄第何號)

前掲商標(標章)ハ特許局審査ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

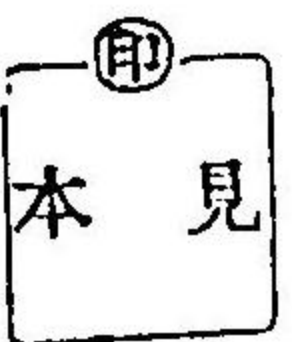
特許局長 氏

名 印

第五號書式

第何號(原登錄番號)

商標登錄證(標章登錄證)



本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

(一聯合商標(聯合標章)登錄第何號)

前掲商標(標章)ハ明治何年何月何日第何號登錄商標(標章)ノ商標權(標章權)存續期間ノ更新ニ係ルモノニシテ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

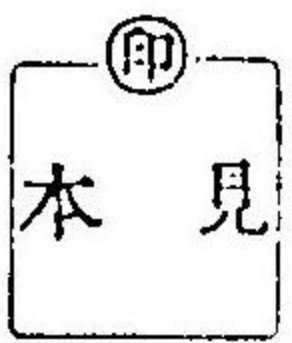
特許局長 氏

名 印

第六號書式

第何號

外國商標登錄證



國籍(本籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一商標ヲ附スヘキ商品

一商標權存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

(一聯合商標登錄第何號)

前掲商標ハ何國ノ登錄商標ニシテ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ依

(394)

テ商標原簿ニ登録シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長

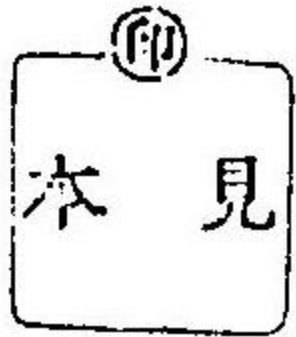
氏

名印

第七號書式

復第何號

商標登録證復本(標章登録證復本)



本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一登録番號

一商標(標章)ニ附スヘキ商品

一商標權(標章權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

(一聯合商標(聯合標章)登録第何號)

前記商標權(標章權)ニ付商標登録證(標章登録證)復本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長

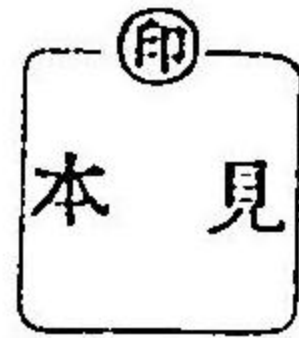
氏

名印

第八號書式

第何號

商標登録證(標章登録證)



本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

一商標(標章)ヲ附スヘキ商品

一商標權(標章權)存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

(一聯合商標(聯合標章)登録第何號)

前記商標(標章)ノ登録證何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長

氏

名印

第九號書式

收入印紙

納付書

願書番號

一金何圓也

商標料(標章料)

右納付候也

(395)

住所(居所又ハ營業所)

年月日

氏

名

印

(法人ナルトキハ
ノ代表者日名印)

特許局長 氏 名殿

商標ノ登録ニ關スル件

(明治四十二年十月
勅令第二百九十六號)

朕商標ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 商標ノ登録ニ關シテハ特許登録令ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令ヲ準用スル場合ニ於テ同令中ニ引用シタル特許法

ノ條項ハ商標法第二十一條ノ規定ニ依リ準用シタル特許法ノ條項ニ該當ス

第三條 商標權設定ノ登録アリタルトキハ登録願書ニ貼付シタルハ標ノ見本ハ之ヲ商標

原簿ノ一部ト看做ス

第四條 商標權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ營業ヲ共ニスルコトヲ證スル書面ヲ

申請書ニ添付スヘシ

第五條 聯合商標ノ一商標權移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ同時ニ他ノ商標權移轉

ノ登録ヲ申請スヘシ

第六條 商標權ヲ分割シテ移轉ノ登録ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ移轉スル商標ヲ使用

スル商品ヲ申請書ニ記載スヘシ

第七條 營業ノ廢止ニ依ル商標權ノ登録ノ抹消ハ登録名義人ノミニテ之ヲ申請スルコト

ヲ得

登録ノ一部抹消ノ場合ニ於テハ申請書ニ營業ヲ廢止シタル商品ヲ記載スヘシ

第八條 本令ハ商標法第二十條ノ規定ニ依ル標章ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ商標權ノ設定ニ係ル願書ニ貼付シタル見本及明細書ハ之ヲ舊商標原簿ノ一

部ト看做ス

商標ノ登録ニ關スル件施行

規則

(明治四十二年十月
農商務省令第四十八號)

明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通相定ム

明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行規則

第一條 商標ノ登録ニ關シテハ本則ニ定アルモノヲ除クノ外特許登録令施行規則ノ規定

ヲ準用ス

第二條 前條ノ規定ニ依リ特許登録令施行ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル

特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ商標法又ハ商標ノ登録ニ關スル件ニ依リ進用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

第三條 商標原簿ハ別記様式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第四條 聯合商標登録番號欄ニハ其ノ登録商標ト類似スル聯合商標ノ登録番號ヲ記載スヘシ

第五條 商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ第一條ノ規定ニ依リ記載スヘキ事項ノ外表示欄ニ商標ヲ使用スル商品ノ類別及商品ヲ記載スヘシ

外國ノ登録商標トシテ登録ヲ出願シタル商標ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ其ノ商標權ノ存續期間外國登録商標タル旨及其ノ外國ニ於テ登録ヲ受ケタル年月日ヲ記載スヘシ

第六條 聯合商標ノ商標權設定ノ登録ヲ爲スニハ登録番號欄ニ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ聯合商標ナル旨ヲ記載シタル上前條ノ規定ニ依リ商標ノ設定ノ登録ヲ爲シタル後其ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録番號ヲ記載シ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録川紙中聯合商標登録番號欄ニ其ノ登録番號ヲ記載スヘシ
商標權ノ設定後當該登録商標カ聯合商標トナリタルトキハ表示欄ノ商標權設定ノ登録ニ聯合商標トナリタル旨ヲ附記スヘシ

第七條 商標權存續期間更新ノ登録ハ第五條ノ規定ニ準シ之ヲ爲スヘシ

第八條 聯合商標中ノ一箇若ハ數箇ノ商標權カ消滅シ又ハ無効トナリタル爲特許登録令施行規則第四十四條又ハ第四十五條ノ規定ニ準シ登録ヲ爲シタルトキハ他ノ聯合商標ノ商標權ノ登録用紙中聯合商標登録番號欄ニ於ケル其ノ登録番號ヲ朱抹スヘシ
依ル抹消ノ登録アリタルトキ亦同シ

第九條 商標ヲ使用スル商品ニ依ル商標權分割移轉ノ登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ特許權分割許可ノ登録ニ準シ其ノ登録ヲ爲スヘシ

但シ各登録用紙ノ表示欄ニ商標權ノ表示ヲ爲ス場合ニ於テハ第五條ノ規定ニ準シ尙移轉シタル商標權ノ登録用紙中甲區事項欄ニ取得者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載スヘシ
第十條 明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件第七條第二項ノ規定ニ依ル登録ノ申請アリタル場合ニ於テ登録ヲ爲スニハ表示欄ニ變更ノ登記ヲ爲シタル後營業ヲ廢止シタル商品ヲ朱抹スヘシ

第十一條 本則ノ規定ハ標章ニ關スル登録ニ之ヲ準用ス

附 則

第十二條 本則ハ明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

(400)

登録 番號	表題部		順位 番號	事項欄	代理人欄	聯合 登錄 番號 欄
	表示 番號	表示欄				

特許意匠商標及實用新案ニ關スル手数料ノ件 (明治四十二年十月勅令第三百三號)

朕特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 第一條 特許法、意匠法、商標法若ハ實用新案法又ハ之ニ基キテ發スル勅令ニ依リ出願
 請求若ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許出願 每一件 金五圓
- 二 追加特許出願 每一件 金三圓
- 三 特許出願人ノ名義變更届出 每一件 金二圓五十錢
- 四 追加特許出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓五十錢
- 五 特許證複本ノ請求 每一件 金三圓
- 六 追加特許證複本ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 七 特許權存續期間延長ノ請求 每一件 金二十五圓
- 八 特許權改訂許可出願 每一件 金五圓
- 九 特許權分割許可出願 每一件 金五圓
- 十 特許權取消ノ請求 每一件 金十圓
- 十一 意匠登錄出願 每一件 金一圓

(401)

- 十二 意匠ヲ秘密ニセムトスルノ請求 每一件 金一圓
- 十三 意匠登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金五十錢
- 十四 意匠登録證複本ノ請求 每一件 金五十錢
- 十五 實用新案登録出願 每一件 金二圓
- 十六 實用新案登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓
- 十七 實用新案登録證複本ノ請求 每一件 金一圓
- 十八 商標又ハ標章ノ登録出願 每一件 金三圓
- 十九 商標又ハ標章ノ登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓五十錢
- 二十 商標又ハ標章ノ登録證複本ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 二十一 院標權又ハ標章權存續期間更新ノ登録出願 每一件 金二圓
- 二十二 商標又ハ標章登録取消ノ請求 每一件 金五圓
- 二十三 法定ノ期間延長ノ請求 每一件 金五十錢
- 二十四 法定又ハ指定ノ期間懈怠ノ結果ヲ免レムトスルノ請求 每一件 金一圓
- 二十五 證明ノ請求 每一件 金五十錢

- 二十六 書類ノ謄本ノ請求 謄本一枚ニ付金十錢 歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢 百語ニ滿タサルモ亦同シ但シ書類中圖面アルトキハ其ノ部分ニ關シテハ圖面調製ノ例ニ依ル
- 二十七 圖面ノ調製ノ請求 圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下
- 二十八 書類ノ閱覽ノ請求 每一件 金十錢
- 二十九 書類ノ謄寫ノ請求 每一件 一時間金二十五錢但シ一時間ニ滿タサルモノハ一時間トス
- 三十 再審査ノ請求 每一件 金三圓
- 三十一 審判又ハ抗告審判ノ請求 每一件 金十二圓
- 三十二 參加ノ請求 每一件 金三圓
- 三十三 費用額決定ノ請求 每一件 金一圓
- 三十四 費用額決定又ハ補償金額確定審決ノ執行力アル正本ノ請求 每一件 金一圓

第二條 前條ノ規定ハ國ノ出願ノ請求又ハ届出ニ之ヲ適用セス

第三條 第一條第十一號乃至第十三號、第十八號、第十九號及第二十一號ニ規定スル手續料ハ同一物品ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各共ノ半額トス

第四條 手数料ハ收入印紙ヲ願書、請求書又ハ届出書ニ貼付シ之ヲ納ムヘシ
附則

本令ハ特許法、意匠法、商標法及實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎特許意匠商標又ハ實用新案ニ關

シ特許局ニ對シ請求又ハ届出ヲ

爲ス場合手数料額 (明治四十二年十月
農商務省令第五十二號)

明治三十八年農商務省令第四號及第十五號左ノ通改正ス

第一條 特許、意匠、商標又ハ實用新案ニ關シ特許局ニ對シ左ニ掲ケル請求又ハ届出ヲ
爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

- 一 特許證再下付ノ請求 每一件 金二圓五十錢
- 二 追加特許證再下付ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 三 特許證差出免除ノ請求 每一件 金二圓五十錢
- 四 追加特許證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 五 意匠登錄證再下付ノ請求 每一件 金五十錢
- 六 意匠登錄證差出免除ノ請求 每一件 金五十錢

- 七 意匠法施行細則第六條ノ規定ニ依ル請求 每一件 金五十錢
- 八 實用新案登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓
- 九 實用新案登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓
- 十 實用新案權存續期間滿了前一月以内ニ於テ爲ス實
用新案權存續期間延長ノ請求 每一件 金一圓
- 十一 實用新案法施行規則第六條ノ規定ニ依ル出願變
更ノ請求 每一件 金一圓
- 十二 商標登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓
- 十三 商標登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 十四 商標權存續期間滿了前三月以内ニ於テ爲ス商
標權存續期間更新ノ請求 每一件 金一圓
- 十五 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル届出 每一件 金一圓
- 十六 期日又ハ特許法、意匠法、商標法又ハ實用新
案法ニ定アル期間以外ノ期間變更ノ請求 每一件 金五十錢
- 十七 雛形又ハ見本閱覽ノ請求 每一件 金十錢
- 第二條 前條ノ規定ハ國ノ請求又ハ届出ニ付之ヲ適用セス
- 第三條 第一條第五號、第六號、第十二號乃至第十五號ニ規定スル手数料ハ同一ノ物品

(406)

ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス

第四條 手数料ハ收入印紙ヲ請求書又ハ届書ニ貼付シテ之ヲ納ムヘシ

附則

第五條 本令ハ特許法施行細則、意匠法施行細則、商標法施行細則及實用新案法施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎實用新案法

(明治四十二年四月法律第二十六號)

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル實用新案法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實用新案法

第一條 物品ニ關シ其ノ形狀、構造又ハ組合ハセニ係リ實用アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受クルコトヲ得

第二條 職務上又ハ契約上爲シタル實用新案ニ付登録ヲ受クルノ權利ハ勤務規程又ハ契約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ職務ヲ執行セシムル者又ハ使用者ニ屬ス
職務ノ執行又ハ契約ノ履行ニ依ル勤務中公務員又ハ被用者ノ爲シタル考案ニシテ職務上又ハ契約上爲シタルモノハ非サル實用新案ニ付案出前豫メ登録ヲ受クルノ權利又ハ實用新案權ヲ讓渡セシムルコトヲ定メタル勤務規程又ハ契約ノ條項ハ之ヲ無効トス
本條ニ於テ公務員ト稱スルハ刑法第七條第一項ノ公務員ヲ謂フ

第三條 本法ニ於テ新規ト稱スルハ左ノ各號ニ該當セサルモノヲ謂フ

- 一 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ帝國內ニ於テ公然知ラレ若ハ公然用井ラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ
- 二 登録出願前同一又ハ類似ノ物品ニ關シ容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ又ハ之ニ類似スルモノ

(407)

第四條 左ニ掲ケル實用新案ニ付テハ之ヲ登録セス

- 一 菊花御紋章ト同一又ハ類似ノ形狀ヲ有スルモノ
- 二 秩序若ハ風俗ヲ紊リ又ハ衛生ヲ害スルノ虞アルモノ

第五條 同一又ハ類似ノ實用新案ニ付各別ニ登録ヲ受ケルノ權利ヲ有スル者二人以上アルトキハ最先ニ出願ヲ爲シタルモノニ限り登録ス其ノ同日ノ出願ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ之ヲ登録セス

第六條 實用新案ノ登録ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ移轉スルコトヲ得但シ擔保ニ供スルコトヲ得ス

登録ヲ受ケルノ權利ノ承繼ハ登録出願前ニ在リテハ登録ヲ出願シ登録出願後ニ在リテハ出願人ノ名義變更ヲ届出ツルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ同日ノ出願又ハ届出ニ係ルトキハ關係者ノ協議ニ依リ協議調ハサルトキハ共ニ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第七條 發明特許又ハ意匠登録ノ出願ヲ爲シ特許又ハ登録スヘカラストノ査定ヲ受ケタル者其ノ最初ノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ發明又ハ意匠ニ係ル實用新案ニ付登録ヲ出願シタルトキハ發明特許又ハ意匠登録ヲ出願シタル日ニ於テ出願シタルモノト看做ス

第八條 實用新案權ハ登録ニ依リ發生ス

實用新案權者ハ其ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ製作、使用、販賣又ハ擴布スルノ權利ヲ專有ス

同一又ハ類似ノ考案ニ關シテハ實用新案權ハ其ノ出願前ノ出願ニ係ル特許權又ハ意匠權ニ依リ制限ヲ受ケルモノトス

第九條 實用新案權ノ存續期間ハ三年トス

前項ノ期間ハ三年間之ヲ延長スルコトヲ得

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原權ノ利範圍内ニ於テ登録實用新案ヲ實施スルノ權利ヲ有ス

- 一 同一又ハ類似ノ實用新案ニ對スル二以上ノ登録中其ノ一カ無効ト爲リタル場合ニ於テ善意ナル原實用新案權者
- 二 前號ノ原實用新案權ニ付善意ニ實施ノ權利ヲ得テ登録ヲ受ケタル者

特許法第三十六條及第三十七條ノ規定ハ前項ノ權利ニ之ヲ準用ス

第十一條 實用新案ノ登録カ第一條、第二條、第四條、第五條、第六條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ反シタルトキハ審判ニ依リ之ヲ無効ト爲スヘシ登録カ登録ヲ受ケルノ權利ヲ冒認シタル者ニ對シ爲シタルモノナルトキ亦同シ

第十二條 登録スヘシトノ査定アリタルトキ又ハ實用新案權存續期間延長ノ請求アリタルトキハ實用新案原簿ニ登録シ實用新案登録證ヲ下付ス

第十三條 特許局ハ實用新案公報ヲ發行シ登録實用新案及之ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ但シ秘密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 登録スヘシトノ査定ヲ受ケタル者ハ其ノ登録ヲ受クル際每件登録料金十五圓ヲ納付スヘシ

實用新案權存續期間ノ延長ヲ請求スル者ハ每件登録料金三十圓ヲ納付スヘシ

第十五條 實用新案登録ノ出願アリタルトキハ審査官ヲシテ之ヲ査定セシム

第十六條 審査官ハ第四條、第五條、第六條第二項及第二十一條ノ規定ニ依リ出願ニ係ル實用新案カ登録スヘキモノナルヤ否ニ付査定スヘシ但シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ

該當セサルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ理由トシテ登録拒絶ノ査定ヲ爲スヘシ

第十七條 登録拒絶ノ査定ニ不服アル者ハ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ前審査ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ査定セシム

前條但書ニ依ル査定ニ不服アル者再審査ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ審査官ハ其ノ理由ニ付テモ亦審査スヘシ

第十八條 審判ハ左ニ掲クル事項ニ付之ヲ請求スルコトヲ得

一 第十一條ノ規定ニ依ル登録ノ無効

二 實用新案權ノ範圍ノ確認

審判ノ請求ハ審査官又ハ利害關係人ニ限り之ヲ爲スコトヲ得但シ審査官ハ前項第二號ノ審判及第二條、第五條又ハ第六條第二項ノ規定ニ反ストノ理由ニ依ル前項第一號ノ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

審査官ノ請求ニ依ル審判ニ關シテハ其ノ手續ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 審判ノ審決ニ不服アル者ハ審決ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ抗告審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 特許法第八條、第十一條第一項及第三項、第十二條乃至第十五條、第十六條

第一項、第十七條乃至第二十六條、第二十九條、第三十二條、第三十三條、第四十條

第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十九條第二項、第五十條、第五十一條

第五十三條、第五十六條、第五十七條第五項、第六十條、第六十六條乃至第六十八條

第七十條乃至第七十九條、第八十二條、第八十三條第一項及第八十四條乃至第九十一條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第二十一條 外國人ニシテ帝國內ニ住所又ハ營業所ヲ有セサル者ハ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ規定アル場合ノ外實用新案權又ハ實用新案ニ關スル權利ヲ享有スルコトヲ得ス

實用新案ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第二十二條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ業トシテ偽造、模造シタル者又ハ偽造品

(412)

模造品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノヲ業トシテ輸入シタル者又ハ其ノ物品ヲ業トシテ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者

二 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其ノ容器、包裝等ニ實用新案登録ノ標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ其ノ物品ヲ販賣者ハ擴布シタル者

三 實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ其ノ物品ハ實用新案ノ登録ニ係ルコトヲ表示シ又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者

第二十四條 第二十二條ノ犯罪ニ因リ沒收スルコトヲ得ヘキ物ニ付判決言渡前被害者ニリ請求アリタルトキハ之ヲ相當ノ代價ニ見積リ被害者ニ交付スル言渡ヲ爲ス

損害ノ額力交付ヲ受ケタル物ノ見積代價ニ超過スルトキハ被害者ハ其ノ差額ニ限り賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 法律ニ依リ宣誓シタル證人若ハ鑑定人又ハ通事ニシテ特許局又ハ其ノ囑託ヲ受ケタル裁判所若ハ官廳ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五

百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ査定又ハ審決ニ至ラサル前自白シタルトキハ其ノ刑ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二十六條 特許局ヨリ證人、鑑定人又ハ通事トシテ呼出サレタル者正當ノ理由ナクシテ呼出ニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 特許辨理士ニ非スシテ實用新案ニ關スル代理業ヲ營ミタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條ノ規定ハ本法施行前無効ト爲リタル實用新案ノ登録ニ關シテハ之ヲ適用セス

特許法第九十九條、第百二條第二項、第百五條及第百六條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ適用ス

實用新案法施行規則

(明治四十二年十月 農商務省令第四十五號)

實用新案法施行規則左ノ通改正ス

實用新案法施行規則

第一條 實用新案ノ登録ヲ受ケムトスル者ハ一實用新案ニ付一物品毎ニ一通ノ願書ヲ作

(413)

リ之ヲ特許局ニ差出スヘシ
願書ニハ圖面二通ヲ添附スヘシ

第二條 圖面ハ實用新案ノ説明ニ必要ナル部分ヲ示シ之ニ其ノ説明及登錄請求ノ範圍ヲ記載スヘシ其ノ説明及登錄請求ノ範圍ハ之ヲ別紙ニ記載シ圖面ノ一部トシテ差出スコトヲ得

第三條 實用新案法第七條ノ規定ニ依ル登錄願書ニハ發明特許又ハ意匠登錄ノ出願ニ對スル最初ノ査定ノ謄本ヲ添附スヘシ

第四條 審査又ハ再審査ニ關シ必要アルトキハ特許局長ハ出願人又ハ請求人ニ對シ解説書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

解説書ニハ實用新案ノ詳細ナル説明ヲ記載スヘシ

第五條 特許法施行細則第五十三條ノ規定ハ實用新案法第五條及第六條第二項但書ノ規定ニ依リ關係人ノ協議ヲ必要トスル場合ニ之ヲ準用ス

第六條 發明特許又ハ意匠登錄ヲ出願シタル者ハ其ノ出願ニ對シ最初ノ査定ヲ受ケサル場合ニ限り其ノ出願ヲ實用新案登錄願ニ變更ノ請求ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前出願ヲ訂正スヘシ

前項ニ依リ變更シタル實用新案登錄願ハ最初ノ出願ノ「ニ於テ爲シタルモノト看做ス第七條 實用新案權存續期間延長ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ其ノ存續期間滿了ノ日ヨリ

一月前ニ請求書ニ登錄料ニ相當スル收入印紙ヲ貼附シ登錄證ヲ添附シ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ期間後ト雖モ存續期間滿了以前ニ在リテハ別ニ定ムル手数料ヲ納付シ前項ノ請求書ヲ差出スコトヲ得

第八條 登錄證ハ 第五號乃至第八號ノ書式ニ依リ之ヲ作り 特許局長之ニ署名捺印スヘシ

登錄證ニハ圖面ヲ添附スヘシ但シ軍事上祕密ヲ要スル實用新案ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 實用新案登錄ノ標記ハ「登錄新案」ノ文字及其ノ登錄番號ヲ表示スヘシ

實用新案法第二十條ニ基ク特許法第五十六條第四項ノ場合ニ於ケル實用新案登錄ノ標記ハ前項ニ依リ記載ニ「一部」ノ文字ヲ附加スヘシ

第十條 登錄料ハ登錄スヘシトノ査定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

第十一條 特許法施行細則第一條乃至第四十一條、第四十五條、第四十八條乃至第五十二條、第五十五條乃至第五十七條、第六十條、第六十七條、第六十八條、第七十條乃至第八十五條、第八十七條乃至第九十條及第九十三條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

附則

(416)

第十二條 本則ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十三條 第九條ノ規定ハ本則施行前ニ附シタル實用新案登録ノ標記ニ之ヲ適用セス
第十四條 特許法施行細則第九十七條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

(書式)

第一號書式

收入
印紙

實用新案登録願

一 實用新案ノ名稱

一 考案者ノ氏名、住所(居所又ハ營業所)及職業

(本項ハ出願人カ考案者ナルトキハ記載スルコトヲ要セス)

私(私共)儀別紙圖面ニ記載スル物品ニ付實用新案登録相受度此段相願候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

出願人(考案者) 氏

名印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

一 何々

何通

一 何々

何通

第二號書式

收入
印紙

存續期間延長請求書

一 登録番號

一 實用新案ノ名稱

私(私共)儀前記實用新案權ニ付存續期間延長致度此段請求候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

請求人 氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

一 何々

何通

(417)

一何々 何通

第三號書式

收入
印紙

實用新案品出品屆

一實用新案ノ名稱

一考案者ノ氏名及住所(居所又ハ營業所)

(本項ハ届出人カ考案者ナルトキハ記載スルニトキハ要セス)

私(私共)儀別紙圖面ニ記載スル實用新案ニ係ル物品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政
府(何道、何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)(萬國博覽會)ニ出品可致候ニ付此段及
御届候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

一何々 何通

一何々 何通

第四號書式

收入
印紙

出願變更請求書

一願書番號

一發明(意匠)ノ名稱

私(私共)儀前記發明(意匠)ノ特許願(意匠登録願)ヲ實用新案登録願ニ變更致度此段請
求候也

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

職業

年月日

請求人 氏

名

印

(法人ナルトキハ
法人ノ名稱及其
ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名殿

添附書類目錄

(420)

一何々 何通
一何々 何通

第五號書式

第何號

實用新案登錄證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

考案者 何縣何誰

一實用新案ノ名稱

前記實用新案ハ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ實用新案原簿ニ
登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長 氏

名印

第六號書式

第何號(原登錄番號)

實用新案登錄證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

考案者 何縣何誰

一實用新案ノ名稱

前記實用新案權ノ存續期間ノ延長ヲ實用新案原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長 氏

名印

第七號書式

複第何號

實用新案登錄證複本

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(名稱)

考案者 何縣何誰

一登錄番號

一實用新案ノ名稱

一實用新案權存續期間 自明治何年何月何日
至明治何年何月何日

前記實用新案權ニ付登錄證複本ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

(421)

(422)

年月日

特許局長 氏

名印

第八號書式

實用新案登録證

本籍(國籍)

住所(居所又ハ營業所)

名(名稱)

考察者 何縣何誰

一實用新案ノ名稱

一實用新案權存續期間 自明治何年何月何日 至明治何年何月何日

前記實用新案ノ登録何々ノ旨ヲ以テ再下付ヲ請求シタルニ因リ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年月日

特許局長 氏

名印

第九號書式

收入

納付書

願書番號

實用新案ノ名稱

一金何圓也

登録料

右納付候也

年月日

住所(居所又ハ營業所)

氏

名(法人ナルトキハ 法人ノ名稱及其ノ代表者氏名印)

特許局長 氏 名殿

實用新案ノ登録ニ關スル件

(明治四十二年十月 勅令第二百九十七號)

朕實用新案ノ登録ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

實用新案ノ登録ニ關シテハ特許登録令ヲ準用ス但シ使用權設定ノ登録ニ關シテハ同令第十條第二項及第四十二條ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ特許登録令ヲ準用スル場合ニ於テ同令中ニ引用シタル特許法ノ條項ハ實用新案法第二十條ノ規定ニ依リ準用シタル特許法ノ條項ニ該當ス

附則

本令ハ實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ノ實用新案權ノ設定ニ係ル願書申請求範圍及考察者ニ關スル部分、解説書及

(423)

圖面ハ之ヲ舊實用新案原簿ノ一部ト看做ス

●實用新案ノ登録ニ關スル件施行

規則 (明治四十二年十月 農商務省令第四十九號)

明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行規則左ノ通定ム

明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行規則

實用新案ノ登録ニ關シテハ特許登録令施行規則ノ規定ヲ準用ス但使用權設定ノ登録ヲ爲シタルトキハ使用ヲ要スル特許權ノ登録用紙中相當事項欄ニ被使用實用新案權ノ表示ヲ爲シ其ノ實用新案權カ使用權ノ目的タル旨、使用權ノ範圍其ノ他申請書ニ記載セル事項ニシテ使用權ニ關スル事項ヲ記載シ使用ヲ要スル特許證ニ申請書受附ノ年月日、受附番號、順位番號、登録原因及其ノ日附及實用新案登録第何號カ使用權ノ目的タル旨及登録ノ年月日ヲ記載シ特許局ノ印ヲ押捺シテ之ヲ登録權利者ニ還付スヘシ
前項ノ規定ニ依リ特許登録令施行規則ヲ準用シタル場合ニ於テ同則中ニ引用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ハ實用新案法又ハ實用新案ノ登録ニ關スル件ニ依リ準用シタル特許法又ハ特許登録令ノ條項ニ該當ス

附則

本則ハ明治四十二年勅令第二百九十七號實用新案ノ登録ニ關スル件施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●産業組合法 (明治三十三年三月 法律第三十四號)

(沿革) 三九年四月法律第四五號、四二年四月法律第二七號改正

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル産業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

産業組合法

第一章 總則

第一條 本法ニ於テ産業組合トハ組合員ノ産業又ハ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル爲左ノ目的ヲ以テ設立スル社團法人ヲ謂フ

- 一 組合員ニ産業ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及貯金ノ便宜ヲ得セシムルコト(信用組合)
- 二 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト(販賣組合)
- 三 産業又ハ生計ニ必要ナル物ヲ購買シ之ニ加工シ又ハ加工セスシテ組合員ニ賣却スルコト(購買組合)
- 四 組合員ノ生産シタル物ニ加工シ又ハ組合員ヲシテ産業ニ必要ナル物ヲ使用セシムルコト(生産組合)

信用組合ハ組合員外ノ者ニシテ組合加工ノ豫約ヲ爲シタルモノノ出資一口ニ達スル迄ノ貯金ヲ取扱フコトヲ得

第二條 産業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス

無限責任組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ、有限責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ出資額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔シ、保證責任組合ニ在リテハ組合員ノ全員カ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第三條 産業組合ノ住所ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條 産業組合ノ名稱中ニハ其ノ組織及目的ヲ示スヘキ文字ヲ用ヅヘシ

産業組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ヅルコトヲ得ス

第五條 産業組合ニハ本法ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商人ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條 産業組合ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第二章 設立

第七條 産業組合ハ七人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第八條 組合ノ設立者ハ定款ヲ作り之ヲ主タル事務所所在地ノ地方長官ニ差出シ設立ノ許可ヲ請フヘシ

第九條 定款ニハ本法ニ規定アルモノヲ除ク外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印ス

ヘシ

一 目的

二 名稱

三 組織

四 事務所

五 出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

六 第一回拂込ノ金額

七 剩餘金處分及損失分擔ニ關スル規定

八 準備金ノ額及其ノ積立ノ方法

九 組合員タル資格ニ關スル規定

十 組合員ノ加入及脱退ニ關スル規定

十一 組合ノ目的タル事業ノ執行ニ關スル規定

十二 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

信用組合ノ區域ハ市町村ノ區域以内ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十條 産業組合ハ其ノ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得ス

第十一條 出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十二條 組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナリ各組員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十三條 前條ノ拂込アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第十四條 登記スヘキ事項左ノ如シ

- 一 第九條第一號乃至第五號及第十二號ニ掲ケタル事項
- 二 設立許可ノ年月日
- 三 理事及監事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ登記前ニ在リテハ其ノ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十五條 産業組合ハ其ノ設立ノ登記ノ申請ト共ニ左ノ事項ヲ記載シタル組合原簿ヲ其ノ主タル事務所所在地ノ裁判所ニ差出スヘシ

- 一 出資ノ總口數
- 二 拂込ミタル出資ノ總額
- 三 保證責任組合ニ在リテハ各組員ノ氏名、住所及保證金額
- 四 無限責任組合ニ在リテハ各組員ノ氏名、住所

前條第二項ノ規定ハ前項ニ依リ差出シタル帳簿ニ之ヲ準用ス但シ前項第一號及第二號

ノ事項ニ付テハ定款ヲ以テ一事業年度内一回又ハ數回ニ期日ヲ定メテ其ノ期日後二週間内ニ記載ヲ爲スコトヲ得

裁判所ニ差出シタル組合原簿ハ之ヲ登記簿ノ一部ト看做シ其ノ記載ハ之ヲ登記ト看做ス

第十五條ノ二 行政區劃又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿又ハ組合原簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス大字若ハ字又ハ其ノ名稱ニ變更アリタルトキ亦同シ

第一項ノ規定ハ事務所所在地ニ關スル定款ノ規定ニ之ヲ準用ス

第十六條 民法第四十五條第二項、第三項、第四十七條及第四十八條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルヲ二週間トス

第三章 組員ノ權利義務

第十七條 組員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組員ノ有スヘキ出資口數ハ十口ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條 組員ハ組合ニ拂込ムヘキ出資額ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條 組員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

組員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ加入ノ例ニ依ルヘシ

第二十條 組員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十一條 持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス
第二十二條 新ニ組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦責任ヲ負擔ス

第二十三條 組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ理事ニ請求スルコトヲ得

第二十四條 組合員ニシテ總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違背スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一箇月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ地方長官ニ請求スルコトヲ得

第四章 管理

第二十五條 産業組合ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

理事及監事ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ組合設立ノ當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 理事ノ任期ハ三箇年トシ監事ノ任期ハ一箇年トス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 理事又ハ監事ハ何時ニテモ總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任スルコトヲ得

第二十八條 理事及監事ノ選任及解任ノ總組合員ノ半数以上出席シ其議決權ノ四分ノ三以上ヲ以テ之ヲ決ス但シ定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 理事ハ定款及總會ノ決議録ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ組合員組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第二十九條ノ二 組合員名簿ニハ左記ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 各組合員ノ氏名、住所
- 二 各組合員ノ出資口數
- 三 各組合員ノ拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
- 四 出資各口ノ取得ノ年月日
- 五 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額

第三十條 理事ハ通常總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ掲ケタル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 理事ハ前條第一項ニ掲ケタル書類及監事ノ意見書ヲ通常總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ
第三十二條 民法第四十四條第一項、第五十二條第二項、第五十三條乃至第五十五條、第六十條及第六十一條第一項ノ規定ハ産業組合ノ理事ニ之ヲ準用ス
第三十三條 監事ハ理事其ノ他組合ノ事務員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三十四條 民法第五十九條ノ規定ハ産業組合ノ監事ニ之ヲ準用ス

第三十五條 組合カ理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト理事トノ間ノ訴訟ニ付テモ亦同シ

第三十六條 總會ノ決議ハ本法又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス

第三十七條 組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス但シ組合員ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

第三十八條 民法第六十二條、第六十四條、第六十五條第一項及第六十六條ノ規定ハ産業組合ニ之ヲ準用ス

第三十八條ノ二 組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ定款ヲ以テ總會ニ代ハルヘキ總會ヲ設ケルコトヲ得

總會ニ關スル規定ハ前項ノ總會ニ之ヲ準用ス但シ總會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第三十九條 定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

定款ノ變更ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第四十條 組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目録及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アラハ一定ノ期限内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

第四十一條 債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第四十二條 前二條ノ規定ハ保證責任組合カ組合員ノ保證金額ヲ減少スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十三條 組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツヘシ

第四十四條 組合ハ損失ヲ填補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條 組合ハ第五十三條ノ場合ヲ除クノ外持分ノ拂戻ヲ爲スコトヲ得ス

第四十六條 組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第四十七條 組合ノ事業年度ハ一箇年トス

第四十八條 組合ハ組合員ノ持分ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受クルコトヲ得ス

第五章 加入及脱退

第四十九條 無限責任組合ニ加入セムトスル者ハ總組合員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第五十條 定款ヲ以テ組合ノ存立時期ヲ定メタルト否トテ間ハス組合員ハ事業年度ノ終

ニ於テ脱退スルコトヲ得但シ六箇月前ニ其ノ豫告ヲ爲スヘシ

前項ノ豫告期間ハ定款ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得但シ二箇年ヲ超ユルコトヲ得ス

第五十一條 組合員ハ左ノ事由ニ因リテ脱退ス

一 組合員タル資格ノ喪失

二 死亡

三 破産

四 禁治産

五 除名

第五十二條 除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

除名ハ總會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以

テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第五十三條 脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ全部又ハ一部ノ拂戻

ヲ請求スルコトヲ得

第五十四條 脱退シタル組合員ノ持分ハ其ノ脱退シタル事業年度ノ終ニ於ケル組合財産

ニ依リテ之ヲ定ム

但シ定款ノ定ムル所ニ依リ脱退當時ノ財産ニ依リテ之ヲ定ムルコトヲ得

第五十五條 持分ノ拂戻ハ事業年度ノ終ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

持分拂戻ノ請求權ハ前項ノ期間經過ノ後二箇年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

但シ前條但書ノ場合ニ於テハ脱退ノ時ヨリ三箇月内ニ之ヲ爲スヘシ

第五十六條 持分ノ計算ヲ爲ナスニ當リ組合財産ヲ以テ組合ノ債務ヲ完済スルニ足ラサ

ルトキハ脱退シタル組合員ハ其ノ負擔ニ歸スヘキ損失ヲ拂込ムヘシ

第五十七條 脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完済スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂

戻ヲ停止スルコトヲ得

第五十八條 無限責任組合及保證責任組合ニ在リテハ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合

債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ組合原簿ニ記載シタル後二箇年間責任ヲ負擔ス

前項ノ規定ハ特別ノ契約ヲ以テ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ妨ケス

前二項ノ規定ハ持分ヲ讓渡シタル組合員ニ之ヲ準用ス

第六章 監督

第五十九條 産業組合ハ主務大臣、地方長官及郡長之ヲ監督ス

第六十條 監督官廳ハ何時ニテモ理事ヲシテ組合ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ組合ノ事業乃財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ行フ

第六十一條 組合ノ事業又ハ組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ又ハ組定ノ行爲カ定款若クハ法令ニ違背シ其ノ他公益ヲ害スルノ虞アルトキハ主務大臣又ハ地方長官ハ總會ノ決議ヲ取消シ理事、監事若クハ清算人ノ改選ヲ命ジ組合ノ事業ヲ停止シ又ハ組合ヲ解散スルコトヲ得

第七章 解散

第六十二條 組合ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

- 一 定款ニ定メタル事由ノ發生
- 二 總會ノ決議
- 三 組合ノ合併
- 四 組合員カ七人未滿ニ減シタルトキ
- 五 組合ノ破産

第二十八條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス但シ無限責任組合ノ合併ニ付テハ總組合員ノ同意アルコトヲ要ス

第六十三條 組合カ解散シタルトキハ合併及破産ノ場合ヲ除クノ外二週間内ニ各事務所

ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十四條 第四十條及第四十一條ノ規定ハ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 合併ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第六十六條 組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ付テハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ付テハ解散ノ登記ヲ爲シ合併ニ因リテ設立シタル組合ニ付テハ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

第六十七條 合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第六十八條 組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得

組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲スヘシ

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレ

ハ組合財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人ノ解任アリタルトキハ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲シ且之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十五條 民法第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一週間トアルハ二週間トス

第九章 産業組合聯合會及産業組合中央會

第七十六條 産業組合ハ左ノ目的ヲ以テ産業組織聯合會ヲ設立スルコトヲ得

一 所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付シ及時金ノ便宜ヲ得セシムルコト (信用組合聯合會)

二 所屬組合ノ賣却スル物ニ加工シ又ハ加工セスシテ之ヲ賣却スルコト (販賣組合聯合會)

三 所屬組合ノ購買スル物ヲ購買シテ之ニ加工シ又ハ加工セスシテ所屬組合ニ賣却スルコト (購買組合聯合會)

四 所屬組合力其ノ組合員ニ使用セシムル物ヲ所屬組合ニ貸付スルコト (生産組合聯合會)

前項第一號ノ聯合會ニ在リテハ信用組合外ノ組合又ハ第二號乃至第四號ノ産業組合聯合會ヲ加入セシムルコトヲ得

第七十七條 産業組合聯合會ハ社團法入トス

産業組合聯合會ノ組織ハ有限责任及保證責任ノ二種トス

保證責任産業組合聯合會ノ所屬組合及所屬聯合會ノ保證責任其ノ出資ノ總額ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七十八條 産業組合又ハ産業組合聯合會力産業組合聯合會ニ加入シ又ハ脱退セントスルトキハ總會ノ決議ニ依ルヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第七十九條 産業組合聯合會ノ區域ハ道府縣以内ノ範圍ニ於テ之ヲ定メ定款中ニ記載スヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ主タル事務所所在地ノ地方長官ノ認可ヲ得テ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ異ニスル二箇以上ノ産業組合聯合會カ合併セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一項但書又ハ前項ノ規定ニ依リ設立シタル産業組合聯合會ノ監督其ノ他ノ職務ハ主タル事務所所在地ヲ管轄スル地方長官之ヲ行フ

第八十條 産業組合聯合會ノ理事及監事ハ總會ニ於テ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ理事及

監事ノ中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ理事又ハ監事ニ非サル者ヨリ選任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

産業組合聯合會設立當時ノ理事及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

第八十一條 産業組合聯合會ニハ本章ニ規定アルモノヲ除クノ外産業組合ニ關スル規定ヲ準用ス

第八十二條 産業組合中央會ハ産業組合及産業組合聯合會ノ普及發達及聯絡ヲ圖ル目的ヲ以テ設立スルコトヲ得

産業組合中央會ハ社團法人トス

産業組合中央會ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ産業組合ノ事業ノ一部ヲ行フコトヲ得

第八十三條 産業組合中央會ノ名稱中ニハ産業組合中央會ナル文字ヲ用フヘシ

産業組合中央會ニ非スシテ其ノ名稱中ニ産業組合中央會タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用フルコトヲ得ス

第八十四條 産業組合中央會ハ全國ヲ通シテ一箇トシ其ノ設立ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

産業組合中央會ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十五條 産業組合及産業組合聯合會ハ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

前項以外ノ者ト雖定款ノ定ムル所ニ依リ産業組合中央會ノ會員ト爲ルコトヲ得

第八十六條 産業組合中央會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱

二 事務所

三 會員ノ加入及脫退ニ關スル規定

四 會員ノ權利義務ニ關スル規定

五 資産ニ關スル規定

六 役員ニ關スル規定

七 會議ニ關スル規定

八 事業ノ執行ニ關スル規定

九 定款ノ變更ニ關スル規定

十 存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

定款ノ變更ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八十七條 産業組合中央會設立ノ許可アリタルトキハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在

地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一 目的及第八十二條第三項ノ規定ニ依ル事業ノ種類

二 第八十六條第一項第一號、第二號及第十號ニ掲ケタル事項

三 資産ノ總額

四 設立許可ノ年月日

五 理事及監事ノ氏名、住所

第十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八十八條 産業組合中央會ニハ理事及監事ヲ置クヘシ

第八十九條 産業組合中央會ノ理事及監事ハ會員タル産業組合又ハ産業組合聯合會ノ理事、監事及第八十五條第二項ノ會員ノ中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第九十條 産業組合中央會ノ總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ會員ノ中ヨリ選出シタル代表者ヲ以テ組織ス但シ第九十二條ニ於テ準用シタル第六十二條第一項第二號ノ總會ハ會員ヲ以テ組織ス

第九十一條 産業組合中央會ハ主務大臣之ヲ監督ス

第九十二條 第三條、第五條、第六條、第七條、第十條、第十五條ノ二、第十六條、第

二十六條、第二十七條、第二十九條、第三十條乃至第三十五條、第三十九條第一項、

第四十七條、第六十條、第六十一條、第六十二條第一項、第一號第二號第四號第五號、

第六十三條、第六十九條乃至第七十五條、第八十條第二項、第九十三條、第九十四

條、第九十八條、第九十九條、第一百一條、第一百二條第二項、第一百三條乃至第一百五條及

民法第六十二條、第六十四條ノ規定ハ産業組合中央會ニ之ヲ準用ス

第十章 罰則

第九十三條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テ五圓以上三百圓以下ノ過料

ニ處セラル

一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三

十條第一項ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタ

ルトキ若クハ正當ノ理由ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

四 第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條又ハ第七十二條

ノ規定ニ違背シタルトキ

五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサ

ルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ

七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告

ヲ爲シタルトキ

八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ

九 組合ノ目的タル事業ニ非サル營利事業ヲ營ミタルトキ

第九十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用

ス

附則

第九十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十六條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所産業組合聯合會及産業組合中央會ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所ヲ以テ管轄登記所トス

第九十七條 各登記所ニ産業組合登記簿産業組合聯合會登記簿及産業組合中央會登記簿ヲ備フ

第九十八條 組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 定款
- 二 地方長官ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本
- 三 保證責任組合ニ在リテハ各組合員ノ保證金額ヲ證スル書面
- 四 無限責任組合ニ在リテハ各組合員ノ加入ヲ證スル書面

第九十九條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理由ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付

前二項ノ規定ハ組合原簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第一百條 出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

- 一 地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本
- 二 第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第一百一條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

第一百二條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第一百條ニ掲ケタル書面ヲ添附スヘシ
組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ監督官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第一百三條 第九十八條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少組合ノ解散及組合ノ合併ニ因リ變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第一百四條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合原簿ニ記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第一百五條 非訴事件手續法第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百十一條乃至第五百五十一條、第五百五十四條乃至第五百五十八條、第六十三條乃至第六十五條及第七十五

條乃至第七十七條ノ規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第六條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司ヲ之ヲ行フ

第七條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

◎産業組合法施行規則

明治四十二年八月
農商務省令第三十五號

産業組合法施行規則左ノ通改正ス

産業組合法施行規則

第一條 信用組合ノ區域内ニ住居スル者ニ非サレハ加入ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ豫約者ニ對スル貯金ノ拂戻ハ豫約ノ消滅シタルトキニ限り之ヲ爲スコトヲ得

豫約者ハ其ノ貯金カ現在組合員ノ出資一口ニ對スル拂込金額ノ最小額ト同額ニ達シタル後ニ非サレハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

豫約者カ豫約後三箇年ヲ經過シ尙ホ組合員ト爲ルニ至ラサルトキハ組合ハ豫約ノ解除ヲ爲スヘシ

第二條 出資一口ノ金額ハ組合ニ在リテハ五十圓、聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條 第一回拂込金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 組合若ハ聯合會カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徵收シ又ハ新ニ出資口數ヲ増加スル者ヨリ増口金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額ハ之ヲ準備金ニ組入ルヘシ脱退シタル組合員又ハ組合若ハ聯合會ニ對シ其ノ持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ殘額ニ付亦同シ

第六條 總代會ハ組合ニ在リテハ千人以上ノ組合員、聯合會ニ在リテハ百以上ノ所屬組合及所屬聯合會ヲ有スルニ非サレハ之ヲ設ケルコトヲ得ス

第七條 産業組合法第九十條ノ代表者ハ道府縣毎ニ會員之ヲ選舉スヘシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ代表者ニ之ヲ準用ス

第八條 理事及監事ハ定款ノ規定又ハ總會若ハ總代會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 組合、聯合會及中央會ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 理事ハ總會又ハ總代會ノ承認ヲ經タル後選滯ナク産業組合第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ、中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ

差出スヘシ

- 第十一條 組合又ハ聯合會ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 組合ニ在リテハ組合員ノ職業別ノ數並出資口數ノ異動、聯合會ニ在リテハ所屬組合及所屬聯合會ノ種類別ノ數並出資口數ノ異動
 - 二 出資拂込ノ總額及剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其ノ總額
 - 三 損益ノ計算並借入金及其ノ償還
 - 四 總會又ハ總代會ノ決議
 - 五 事業ノ狀況
 - 六 信用組合又ハ信用組合聯合會ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額及件數、受入又ハ拂房シタル貯金額及貯金ヲ爲シタル組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ數並貯金及貸付金ノ利率、産業組合法第一條第二項ノ豫約ヲ爲シタル信用組合ニ在リテハ豫約者ノ數及其ノ貯金額、販賣組合聯合會ニ在リテハ受入又ハ販賣シタル物ノ種目別ノ數量及價額、購買組合又ハ購買組合聯合會ニ在リテハ購買又ハ賣却シタル物ノ種目別ノ數量及價額、生産組合ニ在リテハ生産シタル物ノ種目別ノ數量又ハ加工若ハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項、生産組合聯合會ニ在リテハ使用ノ功程ヲ表示スヘキ事項
 - 七 處務ノ要件

前項ノ規定ハ中央會ノ事業報告書ニ之ヲ準用ス

第十二條 組合、聯合會又ハ中央會カ借入金ヲ爲サルトキハ毎年總會又ハ總代會ニ於テ一事業年度ニ於ケル借入額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ信用組合又ハ信用組合聯合會カ一事業年度ニ於ケル一組合員又ハ一所屬組合若ハ一所屬聯合會ニ對シテ爲ス貸付額ノ最高限度ニ付之ヲ準用ス

理事ハ前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ遲滞ナク報告スヘシ

第十三條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會又ハ總代會ノ決議錄、財産目錄及貸借對照表ニ添附スヘシ

第十四條 剩餘金ノ配當ハ持分ノ全部若ハ一部又ハ取扱ヒタル物ノ數量、價額若ハ事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 持分ノ全部若ハ一部ハ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六歩ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 合併ノ認可申請書ニハ第十三條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及合併後存續スル組合若ハ聯合會又ハ合併ニ因リテ設立スル組合若ハ聯合會ノ定款ヲ添附スヘシ

第十七條 組織變更ノ認可申請書ニハ組合ニ在リテハ總組合員、聯合會ニ在リテハ總所屬組合及總所屬聯合會ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員又ハ所屬組合及所屬聯合會ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十三條ニ掲ケタル書類ヲ添附スヘシ

第十七條 組合又ハ聯合會カ中央會ニ加入シ又ハ脫退シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十八條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハムトスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第二十條 産業組合法ノ規定ニ依リ理事又ハ監事ニ關スル登記ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク登記シタル事項及其ノ登記ノ年月日ヲ組合又ハ聯合會ニ在リテハ地方長官ニ中央會ニ在リテハ農商務大臣ニ届出ツヘシ

附則

第二十一條 本則ハ明治四十二年法律第二十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セズ

◎重要物産同業組合法 (明治三十三年三月) 法律第三十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル重要物産同業組合法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 重要物産ノ生産、製造又ハ販賣ニ關スル營業ヲ爲ス者ハ同業者又ハ密接ノ關係ヲ有スル營業者相集リテ本法ニ依リ同業組合ヲ設置スルコトヲ得

重要物産及密接ノ關係ヲ有スル營業ノ種類ハ農商務大臣ノ認定ニ依ル

第二條 同業組合ハ組合員協同一致シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ其ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的ト爲ス

第三條 同業組合ヲ設置セムトスルトキハ豫メ地區ヲ定メ其ノ地區内ノ同業者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ二種以上ノ營業者相集リ組合ヲ設置セムトスルトキハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第四條 同業組合設置ノ地區内ニ於テ組合員ト同一ノ業ヲ營ム者ハ其ノ組合ニ加入スヘシ但シ營業上特別ノ情況ニ依リ農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條 同業組合ハ組合相互ノ氣脈ヲ通シ其ノ目的ヲ達スル爲同業組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

同業組合聯合會ヲ設置セムトスルトキハ其ノ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 同業組合及同業組合聯合會ハ法人トス

同業組合及同業組合聯合會ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 同業組合及同業組合聯合會ノ定款ノ變更ハ各其ノ定款ノ規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 同業組合及同業組合聯合會ハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組長 一名

一 副組長 若干名

一 評議員 若干名

前項ノ役員ノ外定款ノ規定ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ同業組合ニ於テハ組合員中ヨリ同業組合聯合會ニ於テハ聯合會ヲ組織スル同業組合ノ組合員中ヨリ之ヲ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第九條 組長ハ其ノ同業組合又ハ同業組合聯合會ヲ統轄シ其ノ事務ヲ擔任ス

副組長ハ組長ノ事務ヲ輔佐シ組長故障アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ組長ノ諮詢ニ應シ及業務施行ノ狀況ヲ監査スルモノトス

副組長及評議員ハ定款ノ規定ニ依リ組長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

組長副組長共ニ故障アルトキハ評議員之ヲ代理ス

第十條 同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ検査規定ヲ設ケ組合員ノ營業品ヲ検査スルコトヲ得

同業組合及同業組合聯合會ハ各其ノ定款ニ於テ違約者ニ關スル規定ヲ設ケ違約者ニ對シ過怠金ヲ徴シ違約物品ヲ沒收スルコトヲ得

第十一條 同業組合及同業組合聯合會ノ經費ノ豫算並徴收法ハ各其ノ定款規定ニ從ヒ之ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ノ決算及業務成績ハ每年少クトモ一回組合員ニ公示シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條 同業組合及同業組合聯合會ハ其ノ事務ニ關シ行政廳ニ建議スルコトヲ得又其ノ諮詢アルトキハ答申スヘシ

第十三條 同業組合及同業組合聯合會ハ農商務大臣又ハ地方長官ノ命シタル官吏ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得又其ノ質問ニ對シ確實ニ答辯スヘキモノトス

第十四條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合及同業組合聯合會ヲ設ケシムルコトヲ得

農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ同業組合ノ地區ノ範圍、營業ノ種類又ハ定款ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十五條 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲ニシテ法律命令ニ違背シ又ハ公益ヲ害シ又ハ其ノ目的ニ違背シ又ハ監督官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ農商務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 同業組合若クハ同業組合聯合會ノ解散又ハ其ノ業務ノ停止

二 役員ノ解職
三 決議ノ取消

第十六條 同業組合若ハ同業組合聯合會解散ヲ爲サムトスルトキハ組合員三分ノ二以上同意ニ依リ其ノ事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 地方長官ハ其ノ管内ニ於ケル同業組合及同業組合聯合會ヲ監督シ必要アルトキハ意見ヲ具シ農商分務大臣ノ處分ヲ請フヘシ

第十八條 農商務大臣ハ同業組合及同業組合聯合會ニ關シ其ノ職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得

第十九條 第四條第十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ二圓以上二百圓以下ノ過料ニ要ス前項ノ過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第三百八條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 同業組合又ハ同業組合聯合會ノ證票若ハ検査證ヲ營業品ニ偽リテ附シタル者又ハ偽造、變造ノ證票若ハ検査證ヲ營業品ニ附シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則

第二十一條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要輸出品同業組合法ハ之ヲ廢止ス

第二十二條 重要輸出品同業組合法ニ依リテ設立シタル組合及聯合會ハ本法施行ノ日ヨ

リ之ヲ本法ニ依リ設立シタルモノト看做ス

第二十三條 他ノ法律中重要輸出品同業組合法ヲ準用スヘキモノト定メタル場合ニ付テハ本法施行ノ日ヨリ本法ノ規定ヲ準用シ重要輸出品同業組合法中ノ規定ニ依ルヘキモノト定メタル場合ニ付テハ之ニ相當スル本法ノ規定ヲ準用ス

重要物産同業組合法施行規則

(明治三十三年三月 農商務省令第七號)

重要物産同業組合法施行規則左ノ通相定ム

重要物産同業組合法施行規則

第一條 重要物産同業組合法ニ依リ設置スル組合又ハ聯合會ノ名稱ニハ同業組合又ハ同業組合聯合會ナル文字ヲ附スヘシ

第二條 組合ノ地區ハ郡市以上ノ區域ニ依ルヘシ但特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス第三條 組合ヲ設置セントスルトキハ五名以上ノ營業者ニ於テ其組合ノ地區及ヒ營業ノ種類ヲ定メ發起ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第四條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人組合員タルヘキ者ニ左ノ事項ヲ通知シ組合設置ノ同意ヲ求ムヘシ

一 組合ノ地區及營業ノ種類

- 二 組合員タルヘキ者ノ數但各種營業毎ニ之ヲ區別スヘシ
- 三 組合ノ目的及ヒ業務ノ概目
- 四 創立費及ヒ經費ノ概算
- 五 同意表示ノ形式及期間

第五條 法定ノ同意者アリタルトキハ發起人ハ定款ヲ作り遲滞ナク創立總會ヲ招集スヘシ

創立總會ヲ招集スルニハ少クトモ二週間前ニ會議ノ目的、日時及ヒ場所ヲ組合員タルヘキ者ニ通知シ且之ヲ公告スヘシ

前項ノ通知ニハ定款ヲ添附スヘシ

第六條 定款ハ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ之ヲ議定スルコトヲ得ス但二種以上ノ營業者組合員タルヘキ場合ニ於テハ各種營業毎ニ三分ノ二以上ノ同意アルコトヲ要ス

第七條 創立總會ニ於テハ組合員タルヘキ者ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ他ノ組合員タルヘキ者ニ委任シテ其表決權ヲ行フコトヲ得

第八條 創立總會終ハリタルトキハ發起人ハ法定ノ同意者アリタルコトヲ證スル書類、定款及ヒ創立總會ノ決議録ノ謄本ヲ附シ組合設置ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條 創立總會ニ於テハ其議定シタル定款ノ規定ニ從ヒ役員ヲ選舉シ又ハ經費ノ豫算並ニ徵收法ヲ議定スルコトヲ得

第十條 發起人發起ノ認可アリタル後六箇月内ニ組合設置ノ認可ヲ申請セサルトキ又ハ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ發起ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第十一條 聯合會ノ創立總會ハ其聯合會ヲ組織セントスル組合ニ於テ選定シタル委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第十二條 聯合會ノ創立總會ヲ終ハリタルトキハ聯合會ヲ組織スル組合ヨリ聯合會設置ノ認可申請書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

前項ノ認可申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第十三條 組合又ハ聯合會ノ創立費及ヒ其償却ノ方法ハ創立總會ノ承認ヲ經ヘシ

第十四條 農商務大臣組合又ハ聯合會ノ設置 命シタルトキハ地方長官ハ創立委員ヲ選定シ且其氏名ヲ公告スヘシ

創立委員ハ定款ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 組合又ハ聯合會ノ定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 目的及ヒ業務
- 二 名稱及事務所ノ位置
- 三 組合ノ地區及ヒ營業ノ種類但聯合會ニ在リテハ之ヲ組織スル組合ノ名稱

- 四 加入及ヒ脱退ニ關スル規定
- 五 組合員又ハ聯合會ヲ組織スル組合ノ權利義務
- 六 役員ノ資格・權限及ヒ其選任並ニ解任ニ關スル規定
- 七 會議ニ關スル規定
- 八 會計ニ關スル規定
- 九 違約者ノ處分ニ關スル規定
- 十 定款ノ變更ニ關スル規定
- 十一 解散ニ關スル規定
- 十二 營業品ノ検査又ハ仲裁判斷若クハ調停ヲ爲サントスルトキハ之ニ關スル規定
- 第十六條 定款變更ノ認可申請書ニハ其變更ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ
- 第十七條 組合又ハ聯合會ニ於テ定款又ハ業務ノ執行ニ關スル規則ヲ設ケタルトキハ其都度農商務大臣ニ届出ヘシ
- 第十八條 組合又ハ聯合會ノ役員ノ認可申請書ニハ其履歷書ヲ添附スヘシ
- 第十九條 組合又ハ聯合會ノ經費ノ豫算並ニ徵收法ノ認可申請書ハ創立ノ場合ヲ除ク外毎會計年度二个月前ニ差出スヘシ
- 經費ノ決算及ヒ業務成績ハ毎會計年度後三箇月内ニ報告スヘシ
- 第二十條 役員ノ缺ケタル場合ニ於テ補缺選舉ノ手續ヲ行フヘキ者アラサルトキハ地方

長官ハ組合員ヲ指定シテ其手續ヲ行ハシム

- 第二十一條 組合又ハ聯合會解散シタルトキハ組長及ヒ副組長ヲ以テ其清算人トス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス
- 清算人ハ其氏名住所ヲ地方長官ニ届出ヘシ
- 第二十二條 前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者アラサルトキハ地方長官之ヲ選任ス
- 第二十三條 清算人其任ニ適セス又ハ不正ノ行ハリト認ムルトキハ地方長官ハ清算人ヲ解任スルコトヲ得
- 第二十四條 清算力結了シタルトキハ清算人其結果ヲ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第二十五條 農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
- 附則
- 第二十六條 本則施行前ニ重要輸出品同業組合法施行細則ニ依リテ爲シタル組合設置ノ手續ハ本則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎同業組合準則 (明治十七年十一月 農商務省達第三十七號)

北海道廳 府 縣

同業組合ヲ結ヒ規約ヲ定メ營業上福利ヲ増進シ濫惡ノ弊害ヲ矯正スルヲ圖ル者不尠候處

往々其目的ヲ達スルコト能ハサル趣ニ付今般同業組合準則相定候條向後組合ヲ設ケ規約ヲ造リ認可ヲ請フモノアルトキハ此準則ニ基キ可取扱此旨布達候事
但認可ノ都度當省ニ届出ツヘシ

同業組合準則

第一條 農工商ノ業ニ從事スル者ニシテ同業者或ハ其營業上ノ利害ヲ共ニスル者組合ヲ設ケントスルトキハ適宜ニ地區ヲ定メ其地區内同業者四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ規約ヲ作り管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第二條 同業組合ハ同盟中營業上ノ弊害ヲ矯メ其利益ヲ圖ルヲ目的ト爲スヘシ

第三條 同業組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

第一項 組合ヲ組織スル業名及組合ノ名稱

第二項 組合ノ地區及事務所ノ位置

第三項 目的及方法

第四項 充員ノ選舉法及權限

第五項 會議ニ關スル規程

第六項 加入者及退去者ニ關スル規程

第七項 費用ノ徵收及賦課法

第八項 違約者處分ノ方法

右ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第四條 (三十年農商務省令第六號ヲ以テ削除)

第五條 同業組合ハ同業組合ノ資格ヲ以テ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 同業組合ハ總テ其事蹟及費用決算表ヲ毎年管轄廳ニ報告スヘシ

第七條 規約ヲ改正スルトキハ更ニ認可ヲ請フヘシ

第八條 分立又ハ合併スルトキハ更ニ規約ヲ作り認可ヲ請フ可シ

第九條 同業組合ニ於テ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作ルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ但其聯合ニ府縣以上ニ涉ルトキハ開會地管轄廳ヲ經由シテ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

現 行
法 令 全 書
第 四 編
刑 法

刑	刑
法	
施	
行	
法	法

(1) 刑 法 目 次

現行法令全書
第四編
刑法目次

第一編 總 則	一
第一章 法 例	一
第二章 刑	三
第三章 期間計算	六
第四章 刑ノ執行猶豫	六
第五章 假出獄	六
第六章 時效	七
第七章 犯罪ノ不成立及七刑ノ減免	八
第八章 未遂罪	九
第九章 併合罪	〇
第十章 累 犯	〇
第十一章 共 犯	二
第十二章 酌量減輕	三
	四

刑 法 目 次 (2)

第十三章 加減例……………一四

第二編 罪……………一五

第一章 皇室ニ對スル罪……………一五

第二章 内亂ニ關スル罪……………一六

第三章 外患ニ關スル罪……………一七

第四章 國交ニ關スル罪……………一八

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪……………一九

第六章 逃走ノ罪……………一九

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪……………二〇

第八章 騷擾ノ罪……………二〇

第九章 放火及失火ノ罪……………二一

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪……………二三

第十一章 往來ヲ妨害スル罪……………二四

第十二章 住居ヲ侵スル罪……………二五

第十三章 祕密ヲ侵スル罪……………二六

第十四章 阿片煙ニ關スル罪……………二六

刑 法 目 次 (3)

第十五章 飲料水ニ關スル罪……………二七

第十六章 通貨偽造ノ罪……………二八

第十七章 文書偽造ノ罪……………二九

第十八章 有價證券偽造ノ罪……………三一

第十九章 印章偽造ノ罪……………三二

第二十章 偽證ノ罪……………三三

第二十一章 誣告ノ罪……………三三

第二十二章 猥褻、姦淫及ヒ重婚ノ罪……………三四

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪……………三五

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪……………三六

第二十五章 瀆職ノ罪……………三六

第二十六章 殺人ノ罪……………三七

第二十七章 傷害ノ罪……………三八

第二十八章 過失傷害ノ罪……………三九

第二十九章 墮胎ノ罪……………三九

第三十章 遺棄ノ罪……………四〇

目次終

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪……………四〇

第三十二章 脅迫ノ罪……………四一

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪……………四一

第三十四章 名譽ニ對スル罪……………四一

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪……………四三

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪……………四三

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪……………四三

第三十八章 横領ノ罪……………四五

第三十九章 贓物ニ關スル罪……………四五

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪……………四六

刑法施行法……………四八

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル刑法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治四十年四月二十三日

内閣總理大臣	侯爵西園寺公望
陸軍大臣	寺內正毅
農商務大臣	松岡康毅
海軍大臣	齋藤實
大藏大臣	阪谷芳郎
逓信大臣	山縣伊三郎
司法大臣	松田正久
內務大臣	原敬
文部大臣	牧野伸顯
外務大臣	子爵林董

法律第四十五號
刑法別冊ノ通之ヲ定ム
此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(1)

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

一 第七十三條乃至第七十六條ノ罪

二 第七十七條乃至第七十九條ノ罪

三 第八十一條乃至第八十九條ノ罪

四 第四百四十八條ノ罪及ヒ其未遂罪

五 第五百五十四條 第五百五十五條、第五百五十七條及ヒ第五百五十八條ノ罪

六 第六百六十二條及ヒ第六百六十三條ノ罪

七 第六百六十四條乃至第六百六十六條ノ罪及ヒ第六百六十四條第二項、第六百六十五條第

二項 第六百六十六條第二項ノ未遂罪

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

一 第九條 第九條第一項ノ罪、第八條、第九條第一項ノ例ニ依リ處斷ス

可キ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪

二 第九十九條ノ罪

三 第一百五十九條乃至第一百六十一條ノ罪

四 第六百六十七條ノ罪及ヒ同條第二項ノ未遂罪

五 第七百七十六條乃至第七百七十九條、第八百八十一條及ヒ第八百八十四條ノ罪

六 第九百九十九條、第二百條ノ罪及ヒ其未遂罪

七 第二百四條及ヒ第二百五條ノ罪

八 第二百四條乃至第二百十六條ノ罪

九 第二百十八條ノ罪及ヒ同條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル罪

十 第二百二十條及ヒ第二百二十一條ノ罪

十一 第二百二十四條乃至第二百二十八條ノ罪

十二 第二百三十條ノ罪

十三 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條及ヒ

第二百四十三條ノ罪

十四 第二百四十六條乃至第二百五十條ノ罪

十五 第二百五十三條ノ罪

十六 第二百五十六條第二項ノ罪

(2)

(3)

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ左ニ記載シタル罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

一 第一百一條ノ罪及ヒ其未遂罪

二 第二百五十六條ノ罪

三 第九十三條 第九十五條第二項、第九十七條ノ罪及ヒ第九十五條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル罪

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行為ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トシ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス
同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス
二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一月以上十五年以下トス
懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一月以上十五年以下トス
禁錮ハ監獄ニ拘留ス

第十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ加重スル場合ニ於テハ二十年ニ至ルコトヲ得之ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

(4)

(5)

第十六條 拘留ハ一日以上三十日未滿トシ拘留場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未滿トス

第十八條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上三十日以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ六十日ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後三十日內科料ニ付テハ裁判確定後十日內ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間內罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ
留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

第十九條 左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行爲ヲ組成シタル物

二 犯罪行爲ニ供シ又ハ供セントシタル物

三 犯罪行爲ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレハ沒收ヲ科スル

コトヲ得ス但前條第一項第一號ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

第二十一條 未決拘留ノ日數ハ其全部又ハ一部ヲ本刑ニ算入スルコトヲ得

第二章 期間計算

第二十二條 期間ヲ定ムルニ月又ハ年ヲ以テシタルトキハ曆ニ從ヒテ之ヲ計算ス

第二十三條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ刑期ニ算入セス

第二十四條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間ノ初日亦同シ
放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 刑ノ執行猶豫

第二十五條 左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間內其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ

(6)

得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第二十六條

左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

- 一 猶豫ハ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 前條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第二十七條

刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ

第五章 假出獄

第二十八條

懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第二十九條

左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

- 一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス

可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十條

拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政官廳ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第六章 時効

第三十一條

刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得

第三十二條

時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年
- 三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未滿ハ五年
- 四 罰金ハ三年
- 五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第三十三條

時効ハ法令ニ依リ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第三十四條

時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス

罰金、科料及ヒ沒收ノ時效ハ執行行爲ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第三十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

第三十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰ス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對スル現在ノ危難ヲ避ケル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第三十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

罪本重カル可クシテ犯ストキ知ラサル者ハ其重キニ從テ處斷スルコトヲ得ス
法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條 心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條 瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第四十二條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得
告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

第八章 未遂罪

第四十三條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ケサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第四十四條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

第九章 併合罪

第四十五條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止メ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付ト無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料及ヒ沒

收ハ此限ニ在ラス

第四十七條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルトキハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長合期ヲ算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト雖モ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之ヲ附加スルコトヲ得

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第五十條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第五十一條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス

無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除クノ外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ノ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特

ニ大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第五十三條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但シ第四十六條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第五十五條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

第十章 累犯

第五十六條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル日ヨリ五年内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキハ之ヲ再犯トス

懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリタル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キトキ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ處ス可キ罪アリタルトキハ其罪最重

(13)

ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタルモノト看做ス
第五十七條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス
第五十八條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ從ヒ加重ス可
キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リタル後又ハ其執行ノ免除アリタル後發見セラレタル者ニ付テハ前項
ノ規定ヲ適用セス

第五十九條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

第十一章 共犯

第六十條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第六十一條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第六十二條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第六十三條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十四條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規定アルニ非サ
レハ之ヲ罰セス

第六十五條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ犯罪行為ニ加功シタルトキハ其身分ナキ者ト

雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

第十二章 酌量減輕

第六十六條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第六十七條 法律ニ依リ刑ヲ加重又ハ減輕スル場合ト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲スコトヲ得

第十三章 加減例

第六十八條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例ニ依ル

一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ十年以上ノ懲役若クハ禁錮トス

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ七年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減輕ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第六十九條 法律ニ依リ刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名アルトキハ

先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

(14)

第七十條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ剩ストキハ之ヲ除棄ス

罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金額ヲ剩ストキ亦同シ

第七十一條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第六十八條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第七十二條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

- 一 再犯加重
- 二 法律上ノ減輕
- 三 併合罪ノ加重
- 四 酌量減輕

第二編 罪

第一章 皇室ニ對スル罪

第七十三條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第七十四條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第七十五條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシタル者ハ無期懲役ニ處ス

第七十六條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ二月以上四年以下ノ懲役ニ處ス

第二章 内亂ニ關スル罪

第七十七條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス
- 二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シ其他單ニ暴動ニ干與シタル者ハ三年以上ノ禁錮ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十八條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ禁錮ニ處ス

第七十九條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第八十條 前二條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第二章 外患ニ關スル罪

第八十一條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第八十二條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十三條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第八十四條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬥ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第八十五條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第八十六條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第八十七條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第八十八條 第八十一條乃至條八十六條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第八十九條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

第四章 國交ニ關スル罪

第九十條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十一條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ二年以上ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十二條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以上ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第九十三條 外國ニ對シ私ニ戰闘ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第九十四條 外國交戦ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第九十五條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシメ若クハ爲ササラシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者亦同シ

第九十六條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效ヲラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六章 逃走ノ罪

第九十七條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第九十八條 既決、未決ノ囚人又ハ勾引狀ノ執行ヲ受ケタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第九十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百一條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第七章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第一百三條 罰金以上ノ刑ニ該ル罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隠避セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百四條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ハ犯人又ハ逃走者ノ親族ニシテ犯人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

第八章 騷擾ノ罪

第六百六條 多衆聚合シテ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ騷擾ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 首魁ハ一年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス
- 三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七百七條 暴行又ハ脅迫ヲ爲ス爲メ多衆聚合シ當該公務員ヨリ解散ノ命令ヲ受クルコト三回以上ニ及フモ仍ホ解散セサルトキハ首魁ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第八百八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第九百九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス但公共ノ危險ヲ生セサルトキハ之ヲ罰セス

第十百十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一十條 第九百九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第八百八條又ハ第九百九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十二條 第八百八條及ヒ第九百九條第一項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百十三條 第八百八條又ハ第九百九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第一百十四條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百十五條 第九百九條第一項及ヒ第一百十條第一項ニ記載シタル物自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第一百十六條 火ヲ失シテ第八百八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九百九條ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

火ヲ失シテ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ

燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第一百七條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第八條ニ記載シタル物又ハ他人ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火ノ例ニ同シ自己ノ所有ニ係ル第九條ニ記載シタル物又ハ第一百十條ニ記載シタル物ヲ損壞シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

前項ノ行爲過失ニ出テタルトキハ失火ノ例ニ同シ

第一百八條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ノ生命、身體又ハ財産ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出若クハ流出セシメ又ハ之ヲ遮斷シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第一百九條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建築物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス
第二十條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

第二十一條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二十二條 過失ニ因リ溢水セシメテ第九條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者又ハ第二十條ニ記載シタル物ヲ浸害シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一章 往來ヲ妨害スル罪

第二十四條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二十五條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同

第二百二十六條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆没又ハ破壊シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百二十七條 第二百二十五條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第二百二十八條 第二百二十四條第一項、第二百五條及ヒ第二百二十六條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百二十九條 過失ニ因リ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメ又ハ汽車、電車ノ顛覆若クハ破壊又ハ艦船ノ覆没若クハ破壊ヲ致シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス其業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵ス罪

第二百三十條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守スル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十一條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

神宮又ハ皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第二百三十二條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三章 祕密ヲ侵ス罪

第二百三十三條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條 醫師、藥劑師、藥種商、産婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者故ナク其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル人ノ祕密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第二百三十五條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第二百三十六條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル

(27)

第三百三十七條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十八條 税關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ輸入シ又ハ其輸入ヲ許シタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十九條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

阿片煙ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シテ利ヲ圖リタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第四百十條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第十五章 飲料水ニ關スル罪

第三百二十二條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百二十三條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三百二十四條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三百四十五條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三百四十六條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第三百四十七條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第三百四十八條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

第三百四十九條 行使ノ目的ヲ以テ内國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

偽造、變造ノ外國ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者亦同シ

(28)

第百五十條 行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百五十一條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十二條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ヲ取得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第百五十三條 貨幣、紙幣又ハ銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第十七章 文書偽造ノ罪

第百五十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

御璽 國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第百五十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者

ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百五十六條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ文書若クハ圖畫ヲ變造シタルトキハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百五十七條 公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虚偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十八條 前四條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虚偽ノ文書若クハ圖畫ヲ作り又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百五十九條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實

證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ押捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 前二條ニ記載シタル文書又ハ圖畫ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ圖畫ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十八章 有價證券偽造ノ罪

第六十二條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、官府ノ證券、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
行使ノ目的ヲ以テ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第六十三條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ人ニ交付シ若クハ輸入シタル者ハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十九章 印章偽造ノ罪

第六十四條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十五條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第六十六條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

百六十七條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百六十八條 第百六十四條第二項、第百六十五條第二項、第百六十六條第二項及ヒ前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十章 偽證ノ罪

第百六十九條 法律ニ依リ宣誓シタル證人虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ三月以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第百七十條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第百七十一條 法律ニ依リ宣誓シタル鑑定人又ハ通事虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ同シ

第二十一章 誣告ノ罪

第百七十二條 人ヲシテ刑事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第百六十九條ノ例ニ同シ

第百七十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十二章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

第百七十四條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第百七十五條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

第百七十六條 十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第百七十七條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十三歳以上ノ婦女ヲ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ二年以上ノ有期懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル婦女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第百七十八條 人ノ心神喪失若クハ抗拒不能ニ乘シ又ハ之ヲシテ心神ヲ喪失セシメ若クハ抗拒不能ナラシメテ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ姦淫シタル者ハ前二條ノ例ニ同シ

第百七十九條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十條 前四條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第百八十一條 第百七十六條乃至第百七十九條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ

(35)

無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第百八十二條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十三條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第百八十四條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第百八十五條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第百八十六條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

賭博場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百八十七條 富籤ヲ賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ外富籤ヲ授受シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第百八十八條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十九條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十條 死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十一條 第百八十九條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髮又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第百九十二條 檢視ヲ經スシテ變死者ヲ葬リタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五章 瀆職ノ罪

第百九十三條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第百九十四條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

(36)

第九十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職務ヲ行フニ當リ
刑事被告人其他ノ者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ
禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行
爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第九十六條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ
從テ處斷ス

第九十七條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シ
タルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルト
キハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能
ハサルトキハ其價額ヲ追徵ス

第九十八條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲
役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十六章 殺人ノ罪

第九十九條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一百條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第一百一條 前二條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
但情狀ニ因リ其刑ヲ免除スルコトヲ得

第一百二條 人ヲ教唆若クハ幫助シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾
ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第一百三條 第九十九條、第一百條及ヒ前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二十七章 傷害ノ罪

第一百四條 人ノ身體ヲ傷害シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科
料ニ處ス

第一百五條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

第一百六條 前二條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自ラ人ヲ傷害セスト
雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

(38) 第一百七條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害ノ輕重ヲ知ルコト
能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共

(39)

犯ノ例ニ依ル

第二百八條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ一年以下ノ懲役若クハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若クハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百九條 過失ニ因リ人ヲ傷害シタルハ者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス
第二百十條 過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
第二百十一條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス
第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
第二百十四條 醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎

セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得シテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章 遺棄ノ罪

第二百十七條 老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條 老幼、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第二百十九條 前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

(40)

第三十一章 逮捕及監禁ノ罪

第二百二十條 不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第二百二十一條 前條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百二十二條 生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ
第二百二十三條 生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス
親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第二百二十四條 未成年者ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
第二百二十五條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス
第二百二十六條 帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ略取又ハ誘拐シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス
帝國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ帝國外ニ移送シタル者亦同シ
第二百二十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受若クハ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者又ハ被賣者ヲ收受シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス
第二百二十八條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
第二百二十九條 第二百二十六條ノ罪、同條ノ罪ヲ幫助スル目的ヲ以テ犯シタル者第二百二十七條第一項ノ罪及ヒ此等ノ罪ノ未遂罪ヲ除ク外本章ノ罪ハ營利ノ目的ニ出テサル場合ニ限リ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但被拐取者又ハ被賣者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ效ナシ

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百三十條 公然事實ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ其事實ノ有無ヲ問ハス一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 死者ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ誣罔ニ出ツルニ非サレハ之ヲ罰セズ
 第二百三十一條 事實ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス
 第二百三十二條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第三十五章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

第二百二十三條 虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若クハ其業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二百三十四條 威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第三十六章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

第二百三十五條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百三十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ他人ノ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ五年以上ノ有期懲役ニ處ス
 前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百三十七條 強盜ノ目的ヲ以テ其豫備ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百三十八條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス
 第二百三十九條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス
 第二百四十條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第二百四十一條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ七年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス
 第二百四十二條 自己ノ財物ト雖モ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ本章ノ罪ニ付テハ他人ノ財物ト看做ス
 第二百四十三條 第二百三十五條、第二百三十六條、第二百三十八條乃至第二百四十一條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
 第二百四十四條 直系血族、配偶者及ヒ同居ノ親族又ハ家族ノ間ニ於テ第二百三十五條ノ罪及ヒ其未遂罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族又ハ家族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス
 親族又ハ家族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス
 第二百四十五條 本章ノ罪ニ付テハ電氣ハ之ヲ財物ト看做ス

第三十七章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

第二百四十六條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百四十七條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖リ又ハ本人ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ心神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ財産上不法ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百四十九條 人ヲ恐喝シテ財物ヲ交付セシメタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ財産上不法ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百五十條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十八章 横領ノ罪

第二百五十二條 自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ横領シタル者亦同シ

第二百五十三條 公務上自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三十九章 贓物ニ關スル罪

第二百五十六條 贓物ヲ收受シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百五十七條 直系血族、配偶者、同居ノ親族又ハ家族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第四十章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

第二百五十八條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ三月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百六十一條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十二條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ負擔シ又ハ賃貸シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

第二百六十三條 他人ノ信書ヲ隱匿シタル者ハ六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百六十四條 第二百五十九條、第二百六十一條及ヒ前條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

刑法終

◎ 刑法施行法

(明治四十一年三月 法律第二十九號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル刑法施行法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

刑法施行法

第一條 本法ニ於テ舊刑法ト稱スルハ明治十三年第三十六號布告刑法ヲ謂ヒ他ノ法律ト稱スルハ刑法施行前ニ公布シタル法律及ヒ勅令、布告ニシテ法律ト同一ノ效力ヲ有スルモノヲ謂フ

第二條 刑法施行前ニ舊刑法ノ罪又ハ他ノ法律ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ左ノ例ニ從ヒ刑法ノ主刑ト舊刑法ノ主刑トヲ對照シ刑法第十條ノ規定ニ依リ其輕重ヲ定ム

刑法ノ刑

舊刑法ノ刑

- | | |
|------|------------------|
| 死刑 | 死刑 |
| 無期懲役 | 無期徒刑 |
| 無期禁錮 | 無期徒刑 |
| 有期懲役 | 有期徒刑、重懲役、輕懲役、重禁錮 |
| 有期禁錮 | 有期流刑、重禁獄、輕禁獄、輕禁錮 |
| 罰金 | 罰金 |
| 拘留 | 拘留 |

第三條 法律ニ依リ刑ヲ加重減輕ス可キトキ又ハ酌量減輕ヲ爲ス可キトキハ加重又ハ減輕ヲ爲シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ
 數罪ヲ犯シタル者ニ付テハ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ヲ適用シタル後刑ノ對照ヲ爲ス可シ

一 罪ニ付キ二個以上ノ主刑ヲ併科ス可キトキ又ハ二個以上ノ主刑中其一個ヲ科ス可キトキハ其中ニテ重キ刑ノミニ付キ對照ヲ爲ス可シ併合罪又ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ數罪ノ主刑ヲ併科ス可キトキ亦同シ

第四條 刑法施行前舊刑法又ハ他ノ法律ノ規定ニ依リ告訴ヲ待テ論ス可キ罪ヲ犯シタル者ハ刑法ノ規定ニ依リ告訴ヲ要セサルモノト雖モ告訴アルニ非サレハ其罪ヲ論セス

第五條 刑法第六條ニ依リ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用スル場合ニ於テハ剝奪公權、停止公權、監視又ハ罰金ヲ附加ス可キトキト雖モ之ヲ附加セス

第六條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行ノ前又ハ後ニ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ左ノ例ニ依ル

- 一 確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

- 二 確定裁判アリタル罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用シタルトキト雖モ舊刑法又ハ他ノ法律ニ於テハ其罪ト餘罪トニ付キ數罪俱發ニ關スル規定ニ依ル

第七條 左ニ記載シタル者刑法施行前更ニ刑法ノ有期懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ヲ犯シ刑法施行後其罪ニ付キ裁判ヲ爲ストキハ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ニ於テハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

- 一 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ處セラレタル者
- 二 舊刑法又ハ他ノ法律ニ依リ刑法ノ懲役ニ相當スル刑ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ懲役ニ相當スル刑ニ減輕セラレタル者

刑法第五十六條第三項ノ規定ハ數罪俱發ニ關スル規定ニ依リ處斷セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第八條 刑法施行前ニ犯シタル一罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキト雖モ其罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第九條 刑法施行前ニ犯シタル數罪ト刑法施行後ニ犯シタル一罪又ハ數罪トニ付キ同時ニ裁判ヲ爲ス場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用ス可キトキハ數

罪俱發ニ關スル規定ニ依リテ定マリタル一ノ重キ罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テ刑法施行前ノ罪ニ刑法又ハ刑法ノ刑名ニ依リ刑ヲ定メタル法令ヲ適用ス可キトキハ其數罪ト刑法施行後ノ一罪又ハ數罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 刑法施行後ニ犯シタル罪ニ付キ確定裁判アリタル後刑法施行前ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ其罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ確定裁判アリタル罪ト其罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十一條 刑法施行前ニ犯シタル罪ニ付キ刑法施行後確定裁判アリタル後刑法施行後ニ犯シタル餘罪ニ付キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ確定裁判アリタル罪ニ舊刑法又ハ他ノ法律ヲ適用シタルトキト雖モ其罪ト餘罪トニ付キ併合罪ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條 第七條第一項各號ニ記載シタル者刑法施行後有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ累犯ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 刑法施行後ハ舊刑法又ハ舊刑法施行前ノ法令ノ刑ニ處セラレタル者ト雖モ刑ノ執行、假出獄及ヒ時効ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス但罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル者ヲ勞役場ニ留置スル場合ニ於テハ檢事ノ請求ニ依リ裁判所決定ヲ以テ其言

渡ヲ爲ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條及ヒ明治十四年第八十一號布告第一條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

舊刑法ノ刑ニ處セラレタル者ノ刑法施行前ニ於ケル時効期間ノ起算及ヒ時効ノ中斷ニ付テハ期滿免除ニ關スル規定ニ從フ

第十四條 刑法施行後ハ舊刑法ノ刑ニ處ス可キ者ト雖モ刑ノ執行猶豫ニ付テハ刑法ノ規定ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二條ノ例ニ依リ主刑ノ對照ヲ爲ス可シ

第十五條 刑法施行前假出獄ヲ許サレタル者及ヒ幽閉ヲ免セラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法ノ假出獄ニ關スル規定ヲ準用ス

刑法施行前罰金又ハ科料ヲ納完セサル爲メ輕禁錮又ハ拘留ニ換ヘラレタル者ニ付テハ刑法施行ノ日ヨリ刑法第十八條及ヒ第三十條ノ規定ヲ準用ス但留置ノ日數ハ其執行ノ日ヨリ起算シ刑法第十八條ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條 懲治場留置ノ執行ハ刑法施行後ト雖モ從前ノ例ニ從フ但司法大臣ハ何時ニテモ其留置ヲ解キ又ハ感化院ニ入院セシムルコトヲ得

第十七條 關府判決ヲ以テ言渡シタル刑ノ時効期間ハ其言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十八條 剝奪公權、停止公權、監視及附加ノ罰金ノ言渡ハ刑法施行ノ日ヨリ其效力ヲ

失フ但既ニ徵收シタル附加ノ罰金ハ之ヲ還付セス

附加ノ罰金ヲ納完セサル爲メ換ヘラレタル禁錮ニ付キ亦前項ニ同シ

第十九條 他ノ法律ニ定メタル主刑ハ第二條ノ例ニ準シ刑法ノ刑ニ對照シテ之ヲ刑法ノ刑名ニ變更ス但單ニ禁錮トアルハ之ヲ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ變更ス

他ノ法律ノ規定中剝奪公權、停止公權、監視及ヒ附加ノ罰金ニ處ス可キ旨ヲ定メタルモノハ之ヲ廢止ス

第二十條 他ノ法律ニ定メタル刑ニ付テハ其期間又ハ金額ヲ變更セス但他ノ法律中持ニ期間又ハ金額ヲ定メサル刑ニ付テハ仍ホ舊刑法總則中期間又ハ金額ニ關スル規定ニ從フ

第二十一條 他ノ法律ニ定メタル刑ヲ加重又ハ減輕ス可キ場合ニ於テハ第二十三條ノ場合ヲ除ク外舊刑法ノ加減例ニ關スル規定ニ依ル

第二十二條 他ノ法律中舊刑法ノ規定ヲ掲ケ又ハ舊刑法ノ規定ニ依リ若クハ之ニ依ラサルコトヲ定メタル場合ニ付キ刑法中其規定ニ相當スル規定アルモノハ刑法ノ規定ニ變更ス

爆發物取締罰則第十條ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ刑法ノ刑ヲ適用ス可キ場合ニ於テハ他ノ法律中刑ノ加重ニ關スル特別ノ規定ハ之ヲ適用セス刑ノ減輕ノ方法ニ付テハ刑法ノ加減例ニ關スル規

定ニ從フ

第二十四條 明治二十二年法律第二十八號及ヒ明治二十三年法律第九十九號ハ之ヲ廢止ス

第二十五條 左ニ記載シタル舊刑法ノ規定ハ當分ノ内刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

- 一 第二編第三章第五節
- 二 第九十八條乃至第二百條
- 三 第二編第四章第九節
- 四 第二編第五章第三節
- 五 第三編第二章第四節

刑法第八條ノ規定及ヒ本法中他ノ法律ニ關スル規定ハ之ヲ前項ノ規定ニ準用ス

第二十六條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第二條ノ例ニ從フ

- 一 軍機保護法ニ掲ケタル罪
- 二 徵兵令ニ掲ケタル罪
- 三 明治三十八年法律第六十六號ニ掲ケタル罪
- 四 通貨及證券模造取締法ニ掲ケタル罪
- 五 船舶法ニ掲ケタル罪
- 六 船員法ニ掲ケタル罪

- 七 船舶職員法ニ掲ケタル罪
 - 八 船舶検査法ニ掲ケタル罪
 - 九 戸籍法ニ掲ケタル罪
 - 十 郵便法ニ掲ケタル罪
 - 十一 舊刑法中印紙ノ偽造、變造及ヒ其知情使用ニ關スル罪
- 第二十七條 左ニ記載シタル罪ハ刑法第三條ノ例ニ從フ
- 一 著作權法ニ掲ケタル罪
 - 二 重要物産同業組合法ニ掲ケタル罪
 - 三 移民保護法ニ掲ケタル罪
- 第二十八條 人ノ資格其他ノ事項ニ關シ舊刑法ノ刑名又ハ罪別ヲ掲ケタル他ノ法律ノ規定ハ刑法施行ノ爲メ變更セラルルコトナシ
- 第二十九條 死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ト看做ス
- 第三十條 前條ニ該當セサル懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ト看做ス
- 前條ニ該當セサル懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ禁錮ニ該ル罪ト看做ス

- 前條ニ該當セサル懲役ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ該ル罪ト看做ス
- 前條ニ該當セサル禁錮ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ該ル罪ト看做ス
- 第三十一條 拘留又ハ科料ニ該ル罪ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ違警罪ト看做ス
- 第三十二條 他ノ法律ニ定メタル罪ニシテ死刑、無期又ハ短期一年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ルモノノ未遂罪ハ之ヲ罰ス
- 第三十三條 死刑、無期又ハ六年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス
- 第三十四條 前條ニ記載シタル者及ヒ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ公權ヲ剝奪セラレタルモノト看做ス
- 前項ノ規定ハ復權ヲ得タル者ニハ之ヲ適用セス
- 第三十五條 六年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕罪ノ刑ニ處セラレタルモノト看做ス
- 六年未滿ノ懲役ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ重禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス
- 六年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ舊刑法ノ輕禁錮ニ處セラレタルモノト看做ス

レタルモノト看做ス

第三十六條 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者及ヒ舊刑法ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ他ノ法律ノ適用ニ付テハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテ公權ヲ停止セラレタルモノト看做ス

第三十七條 他ノ法律中舊刑法第三十一條又ハ第三十三條ノ規定アル爲メ人ノ資格ニ關シ別段ノ規定ヲ設ケサリシ場合ニ付テハ舊刑法第三十一條及ヒ第三十三條ノ規定ハ人ノ資格ニ關シ刑法施行前ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 刑事訴訟法第八條ヲ左ノ如ク定ム

第八條 公訴ノ時効ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

第三十九條 刑事訴訟法第六十二條第三號ヲ左ノ如ク改ム

第三 區裁判所ノ管轄ニ屬スル罪ト思料シタル事件ニ付テハ證據書類ニ意見書ヲ添ヘ

之ヲ區裁判所檢事ニ送致ス可シ

第四十條 刑事訴訟法第二百二十五條第二號ヲ左ノ如ク改ム

第二 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者及ヒ宗教若クハ禮祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務上取扱ヒタルコトニ付キ知得タル事實ニシテ默秘ス可キモノニ關スルトキ

第四十一條 刑事訴訟法第二百二十六條第一項中「刑法第八十條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改メ同條第二項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第二百三十八條中「刑法第七十九條ニ從ヒ罰金」ヲ「四十圓以下ノ罰金又ハ科料」ニ改ム

同法第二百四十四條第一項中「罰金」ヲ「罰金又ハ科料」ニ改ム

第四十二條 刑事訴訟法第六十七條第一項ヲ左ノ如ク改メ第三項ヲ削ル

被告事件其裁判所ノ管轄ニ屬スルモノト思料シタルトキハ公判ニ付スル言渡ヲ受ス可シ

第四十三條 刑事訴訟法第七十二條ヲ左ノ如ク改ム

第七十二條 檢事ハ免訴又ハ管轄違ノ決定ニ對シ抗告ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 刑事訴訟法第二百三十六條中「輕罪、重罪」ヲ削ル

第四十五條 刑事訴訟法第二百四十一條ヲ左ノ如ク改ム

第二百四十一條 裁判所ニ於テ輕罪トシテ受理シタル事件ヲ重罪ナリトスルトキハ

其事件ヲ豫審判事ニ送付スル決定ヲ爲スコシ檢事ノ請求アルトキ亦同シ

被告事件豫審ヲ經タルトキハ公判ヲ止メ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲シ報告

ヲ爲サシムヘシ

受命判事ハ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條 刑事訴訟法第二百六十四條中「更ニ重罪事件トシテ裁判ス可キ旨ノ決定ヲ

爲シ」ヲ削ル

第四十七條 刑事訴訟法第三百十七條ニ左ノ一項ヲ加フ

監獄ニ於テ執行ス可キ二個以上ノ主刑ハ其重キモノヲ先ニス但特別ノ事由アルトキ

ハ檢事ハ重キ刑ノ執行ヲ停止シ他ノ刑ノ執行ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十八條 刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二 死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲スコシ

死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得

タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三 死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令

ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ

執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條 刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止

ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一 心神喪失ノ状態ニ在ルトキ

二 刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三 受胎後七月以上ナルトキ

四 分娩後一月ヲ經過セサルトキ

第五十條 刑事訴訟法第三百二十條中「之ヲ爲スコシ」ノ下ニ「刑ノ執行ノ停止ニ付キ亦

同シ」ヲ加ヘ第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ徴收ニ付テハ非訟事件手續法第二百八條ノ規定ニ準用ス

第五十一條 刑事訴訟法第二十四條、第六十三條、第六十八條、第七十三條及ヒ第

百七十四條但書ハ之ヲ削ル

第五十二條 刑事訴訟法中復權及ヒ特赦ニ關スル規定ハ之ヲ削ル

第五十三條 刑法第五十二條又ハ第五十八條ノ規定ニ依リ刑ヲ定ム可キ場合ニ於テハ其

犯罪事實ニ付キ最終ノ判決ヲ爲シタル裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ

(61)

此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十四條 刑ノ執行猶豫ハ裁判所ニ於テ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ刑ノ言渡ト同時ニ判決ヲ以テ之ヲ言渡ス可シ

第五十五條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ハ上訴ニ因リ其效力ヲ失フコトナシ但原判決ヲ取消シ又ハ破毀シタル場合ハ此限ニ在ラス

上訴裁判所ハ新ニ執行猶豫ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

第五十六條 刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消ス可キ場合ニ於テハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ所在地又ハ最後ノ住所地ヲ管轄スル地方裁判所ノ檢事其裁判所ニ請求ヲ爲スコシ

前項ノ請求アリタルトキハ裁判所ハ被告人又ハ其代理人ノ意見ヲ聽キ決定ヲ爲スコシ此決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スコトヲ得

第五十七條 第五十三條及ヒ抗告ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第五十八條 明治三十八年法律第七十號ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケ仍ホ猶豫ノ期間ヲ經過セサル者ハ刑法ニ依リ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十九條 明治三十九年法律第五十四號ハ之ヲ廢止ス

第六十條 私訴ハ公訴ニ附帶スルトキハ民事訴訟ノ方式ニ依ラス書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ナシト雖モ之ヲ還付スル言渡ヲ爲

ス可シ

第六十二條 左ニ記載シタルモノヲ以テ公訴ニ關スル訴訟費用トス

一 豫審、公判ニ付キ呼出シタル證人、鑑定人及ヒ通事ニ給與ス可キ日當、旅費及ヒ止宿料

二 第六十六條ニ記載シタル費用

第六十三條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ左ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム

一 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付金二十錢乃至金五十錢但止宿料ヲ給與スル場合ニ於テハ日當ヲ給與セス

二 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金三十錢乃至金五圓

第六十四條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ旅費ハ海陸路一里ニ付キ金五錢乃至金二十錢ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

前項ニ掲ケタル者ノ止宿料ハ一日ニ付キ金二十錢乃至金一圓ノ範圍内ニ於テ豫審判事、受託判事又ハ裁判所之ヲ定ム但八里以上ノ地ヨリ來リ滞在スルトキニ非サレハ之ヲ給與セス

第六十五條 證人、鑑定人及ヒ通事ノ日當、旅費及ヒ止宿料ハ豫審ニ於テハ其終結前、

(62)

公判ニ於テハ其判決前ニ本人ヨリ請求スルニ非サレハ之ヲ給與セズ

第六十六條 鑑定、通譯ニ付キ數多ノ時間又ハ特別ノ技能若クハ費用ヲ要スルトキハ日當ノ外別ニ相當ノ金額ヲ給與スルコトヲ得

第六十七條 共犯ノ訴訟費用ハ共犯人ノ連帶負擔トス

附則

本法ハ刑法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

刑法附則其他舊刑法施行ノ爲メ公布シタル法令ハ之ヲ廢止ス

四十一年六月勅令第六十三號

朕刑法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

刑法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

現行
法令
全書

第五編

刑事訴訟法

監獄法施行細則	監獄法	逃亡犯罪人引渡條例	警察犯處罰令	刑事訴訟法
---------	-----	-----------	--------	-------

(1) 刑 事 訴 訟 法 目 次

現行法令全書
第五編 刑事訴訟法目次

刑事訴訟法

第一編 總 則	一
第二編 裁判所	五
第一章 裁判所ノ管轄	六
第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避	八
第三編 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審	九
第一章 捜 査	九
第一節 告訴及ヒ告發	一〇
第二節 現行犯罪	一二
第二章 起 訴	一三
第三章 豫 審	一四
第一節 令 狀	一四
第二節 (削除)	一八
第三節 證 據	一八

第四節 被告人ノ訊問及ヒ對質……………一九

第五節 檢證、搜查及ヒ物件差押……………二〇

第六節 證人訊問……………二二

第七節 鑑定……………二七

第八節 現行犯ノ豫審……………二八

第九節 保釋……………三〇

第十節 豫審終結……………三二

第四編 公判……………三五

第一章 通則……………三五

第二章 區裁判所公判……………四三

第三章 地方裁判所公判……………四七

第五編 上訴……………四八

第一章 通則……………四八

第二章 控訴……………四九

第三章 上告……………五二

第四章 抗告……………五七

第六編 再審……………五八

第七編 大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續……………六〇

第八編 裁判執行、復権及ヒ特赦……………六一

第一章 裁判執行……………六二

第二章 復権……………六四

第三章 特赦……………六四

附則……………六四

警察犯處罰令……………六六

普通及陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法……………七一

逃亡犯罪人引渡條例……………七二

外國艦船乗組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法……………七八

監獄法……………八〇

第一章 總則……………八〇

第二章 收監……………八二

第三章 拘禁……………八三

第四章 戒嚴……………八四

刑 罰 法 目 次 (4)

第五章	作業	八五
第六章	教誨及七教育	八六
第七章	給養	八六
第八章	衛生及七醫療	八七
第九章	接見及七信書	八八
第十章	領置	八九
第十一章	賞罰	九〇
第十二章	釋放	九一
第十三章	死亡	九三
附則		九三
監獄法施行規則		九四
第一章	總則	九四
第二章	收監	九五
第三章	拘禁	九八
第四章	戒護	一〇〇
第五章	作業	一〇三

刑 罰 法 目 次 (5)

第六章	教誨及七教育	一〇七
第七章	給養	一〇八
第八章	衛生及七醫療	一一二
第九章	接見及七信書	一一四
第十章	領置	一一七
第十一章	賞罰	一二一
第十二章	釋放	一二三
第十三章	死亡	一二四
附則		一二四

目次終

刑事訴訟法

(明治二十三年十月法律第九十六號)

朕刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

刑事訴訟法

第一編 總則

- 第一條 公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ
- 第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償、贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス
- 第三條 公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴、私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラス
- 第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スコトヲ得
- 第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコトヲ得
- 第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受クタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償、返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカル可シ
- 第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス
- 第一 被告人ノ死去
- 第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
- 第三 確定判決
- 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

(1)

(2)

第五 大赦

第六 時效

第七條 私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

第一 拋棄又ハ和解

第二 確定判決

第三 時效

第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ成就ス

第一 違警罪ハ六月

第二 輕罪ハ三年

第三 重罪ハ十年

第八條 公訴ノ時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因テ完成ス

一 死刑ニ該ル罪ニ付テハ十五年

二 無期又ハ長期十年以上ノ懲役若クハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ十年

三 長期十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ該ル罪ニ付テハ七年

四 長期五年未滿ノ懲役若クハ禁錮又ハ罰金ニ該ル罪ニ付テハ三年

五 刑法第八十五條ノ罪ニ付テハ一年

六 拘留又ハ科料ニ該ル罪ニ付テハ六月

(明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ改正)

第九條 私訴ノ時效ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セスシテ訴ヲ爲シタルトキ

ト雖モ公訴ノ時效ト其期間ヲ同クス

第十條 公訴、私訴ノ時效ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯罪ニ付テハ其最終ノ

日ヨリ起算ス

第十一條 時效ハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未

タ發覺セサル正犯、從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ

時效ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴、豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期

間ヲ起算ス

第十二條 起訴、豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ屬スルトキハ時效

ノ經過ヲ中斷スル效ナカル可シ但裁判所ノ管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ屬スルト

キハ此限ニ在ラス

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人、告發

人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テタルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要

ムルコトヲ得

被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ告訴人、告發人又ハ民事原告人ヨリ惡意若クハ重過

失ニ因リ其犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルトキ亦同シ

民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シタル損害ノ償ヲ要ム

ルコトヲ得

要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事、檢事、裁判所書記、執達吏、司法警察官

又ハ巡查、憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但シ是等官吏被告人ニ對シ故意ヲ以

(3)

(4)

テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 此法律ニ於テ期限ヲ計算スルニ時ヲ以テスルモノハ即時ヨリ起算シ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セス若シ最終ノ日休暇ニ當ルトキハ期間ニ算入ス可カラズ但時効ノ期間ハ此限ニ在ラス

一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第十六條 此法律ニ定メタル期間ニハ海陸路八里毎ニ一日ノ猶豫ヲ加フ八里ニ滿サルモノト雖モ三里以上ナルトキ亦同シ

島嶼又ハ外國ニ付テハ裁判所ニ於テ特ニ附加期間ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期間ヲ經過シタルトキハ特別ノ場合ヲ除ク外其訴訟ヲ爲ス權ヲ失フ可シ

第十八條 訴訟關係人ハ裁判所所在ノ地ニ住セサルトキハ其地ニ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出ツ可シ否ラサルトキハ書類ノ送達ナシト雖モ異議ヲ申立ルコトヲ得ス

第十九條 書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

第二十條 官吏、公吏ノ作ル可キ書類ハ其所屬官署、公署ノ印ヲ用ヒ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印ス可シ官署、公署ノ印ヲ用ユルコト能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其書類ノ効ナカル可シ

官吏、公吏ニ非サル者ノ作ル可キ書類ニハ本人自ラ署名捺印ス可シ (明治三十二年三月法律第七十三號ヲ以テ改正)

第二十一條 官吏、公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可ラス若シ挿入、削除及ヒ欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ

此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ効ナカル可シ (同上)

第二十一條ノ二 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ (同上ヲ以テ追加)

立會人ハ其代書ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス可シ

官吏、公吏ノ前面ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏、公吏代署シテ其事由ヲ記ス可シ

第二十二條 此法律ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニモ亦之ヲ適用ス

頒布以前ニ寫シタル訴訟手續當時ノ法律ニ背カサルトキハ其效アリトス

第二十三條 此法律ハ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分ス可キ者ニ適用スルコトヲ得ス

(5)

第二十四條 (明治四十一年三月法律第二十九號ヲ以テ削除)

第二編 裁判所

(6)

第一章 裁判所ノ管轄

第二十五條 犯罪ノ種類ニ關スル裁判所ノ管轄ハ裁判所構成法ノ規定ニ從フ

管轄ヲ異ニスル數箇ノ犯罪ニ付キ同時ニ同一ノ被告人ニ對シ訴アリタルトキハ上級ノ裁判所併セテ之ヲ管轄ス

第二十六條 同等ノ裁判所ニ於テハ犯罪ノ地又ハ被告人所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ豫審及ヒ公判ノ管轄ナリトス

第二十七條 數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ於テハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第二十八條 從犯ハ正犯ヲ管轄スル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス
數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アルトキハ其中ニテ最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

裁判所構成法第五十條第二號ニ記載シタル皇族ノ犯罪ニ付テハ其正犯、從犯ハ身分ノ如何ヲ問ハス大審院ニ於テ之ヲ管轄ス

第二十九條 外國ニ在テ犯シタル罪本邦ノ法律ニ依リ處斷ス可キモノニシテ内地ニ於テ被告人ヲ逮捕シタルトキハ逮捕ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス又外國ヨリ送致シタルトキハ送致ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

關席判決ヲ爲ス可キ場合ニ於テハ被告人最後ノ住所ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第三十條 海船内ノ犯罪ニ付テハ定繫港又ハ犯罪後最初ニ著船シタル地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ナリトス

第三十一條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ヲ爲ス場合及ヒ其決定ヲ爲ス裁判所ハ裁判所構成法第十條ノ規定ニ從フ

第三十二條 管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請ハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スコトヲ得
大審院ニ於テ管轄裁判所ヲ指定ス可キ場合ニ於テハ檢事總長ハ司法大臣ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其申請ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 管轄裁判所ノ指定ニ付キ申請ヲ爲サントスル者ハ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ其趣意書ヲ差出ス可シ

裁判所ハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

第三十四條 犯罪ノ性質、被告人ノ身分、員數、地方ノ民心其他重大ナル事情ニ由リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スル恐アルトキハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得

第三十五條 公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ司法大臣ノ命ニ因リ大審院檢事總長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

大審院ニ於テハ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クコトナク其中申請ヲ決定スヘシ

第三十六條 被告人ノ身分、地方ノ民心又ハ訴訟ノ模様ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スルコ

(7)

(8)

ト能ハサル恐アルトキハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スコトヲ得
第三十七條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ハ管轄裁判所ノ檢事其他訴訟關係人ヨリ上級裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタルトキハ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス申請ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ニ差出ス可シ裁判所書記ハ速ニ一通ヲ相手方ニ送達シ相手方ハ其送達アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

裁判所ニ於テ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ其訴訟手續ヲ停止ス可シ

第三十九條 前條ノ申請ニ付キ管轄權ヲ有スル裁判所ニ於テハ書類ニ依リ其申請ヲ決定ス可シ

第二章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌避、回避

第四十條 判事ハ左ノ場合ニ於テ法律ニ依リ其職務ノ執行ヨリ除斥セラル可シ

第一 判事被害者ナルトキ

第二 判事又ハ其配偶者ト被告人、被害者又ハ是等ノ者ノ配偶者ト親屬ナルトキ但姻族ニ付テハ婚姻ノ解除シタルトキト雖モ亦同シ

第三 判事其事件ニ付キ證人、鑑定人ト爲リタルトキ又ハ被告人若クハ被害者ノ法律

上代理人ナルトキ

第四 判事其事件ノ豫審終結ニ干與シ又ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ

第四十一條 判事法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラルル場合及ヒ偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ル可キ情況アル場合ニ於テハ檢事其他訴訟關係人ヨリ之ヲ忌避スルコトヲ得

第四十二條 忌避ノ申請及ヒ其裁判ニ付テハ民事訴訟法第三十四條乃至第三十八條ノ規定ニ從フ

第四十三條 忌避ノ申請アリタルトキハ公判ニ付テハ其辯論ヲ中止ス可シ豫審ニ付テハ仍ホ其處分ヲ繼續ス可シ但急速ヲ要セサル事件ニ付テハ豫審手續ヲ中止スルコトヲ得

第四十四條 判事自ラ第四十條ニ定メタル原由アルコトヲ認メ又ハ回避ス可キモノト思料シタルトキハ忌避申請ノ管轄裁判所ニ回避ノ申立ヲ爲ス可シ
其裁判所ニ於テハ回避ノ申立ヲ裁判ス可シ

第四十五條 本章ノ規程ハ裁判所書記ニモ之ヲ準用ス但其裁判ハ書記所屬ノ裁判所之ヲ爲ス可シ

第三編 犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審

第一章 搜查

(9)